



Plesk 8.3 for Linux/Unix

ドメイン管理者ガイド

著作権表示

ISBN: N/A

SWsoft.

13755 Sunrise Valley Drive

Suite 600

Herndon

VA 20171 USA

Phone: +1 (703) 815 5670

Fax: +1 (703) 815 5675

Copyright 1999-2007,

SWsoft Holdings, Ltd.

All rights reserved

著作権所有者による書面による事前の許可なしに、いかなる形式によっても本書またはその派生物を配布することを一切禁じます

特許を取得したホスティング技術は、アメリカ合衆国の特許番号7,099,948および7,076,633により保護されます。

アメリカ合衆国において特許出願中です。

LinuxはLinus Torvaldsの登録商標です。

ASPLinuxおよびASPLinuxロゴはSWsoftの登録商標です。

RedHatはRed Hat Software, Inc.の登録商標です。

SolarisはSun Microsystems, Inc.の登録商標です。

X Window SystemはX Consortium, Inc.の登録商標です。

UNIXはThe Open Groupの登録商標です。

Intel、Pentium、CeleronはIntel Corporationの登録商標です。

MS Windows、Windows 2003 Server、Windows XP、Windows 2000、Windows NT、Windows 98、Windows 95はMicrosoft Corporationの登録商標です。

IBM DB2はInternational Business Machines Corp.の登録商標です。

SSHおよびSecure ShellはSSH Communications Security, Inc.の登録商標です。

MegaRAIDはAmerican Megatrends, Inc.の登録商標です。

PowerEdgeはDell Computer Corporationの登録商標です。

Request TrackerはBest Practical Solutions, LLCの商標です。

その他すべての商標および著作権はそれぞれの権利所有者に帰属します。

目次

序文	6
対象読者	6
表記規則	6
フィードバック	7
はじめに	8
Plesk へのログイン	8
Plesk のインターフェースに慣れる	9
標準表示の項目	11
デスクトップ表示の項目	11
連絡先情報とパスワードの変更	13
コントロールパネルのカスタマイズ	14
グローバルアカウントの設定	14
グローバルアカウントの作成	15
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続	15
アカウントの切り替え	16
グローバルアカウントパスワードの変更	16
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除	17
標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ	17
コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定	18
コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの追加	19
コントロールパネルからのハイパーリンクボタンの削除	20
デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズ	21
ホスティングパッケージのレビュー	23
コントロールパネルから実行可能な操作の権限の表示	27
Web サイトの設定と維持	29
サイトの作成と公開	30
Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開	30
FTP 経由でのサイトの公開	31
Plesk ファイルマネージャ経由でのサイトの公開	32
SSH 接続によるサイトの公開	33
Microsoft FrontPage を使用してファイルを公開する	33
Adobe Dreamweaver からのサイトの公開	37
サイトのプレビュー	38
データベースの配置	38
データベースの作成またはインポート	39

データベースユーザアカウントの作成	40
データベースユーザのパスワード変更	40
データベースユーザアカウントの削除	40
データベースの削除	41
アプリケーションのインストール	42
Java Web アプリケーションのインストール	45
Ruby Web アプリケーションのインストール	46
SSL 暗号化によるサイト上のオンラインランザクションの保護	47
SSL 証明書を GeoTrust, Inc. または GoDaddy から入手してインストール	48
SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール	50
無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール	52
証明書をサイトからアンインストール	53
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ	54
リソースレコードの追加	55
リソースレコードの変更	56
リソースレコードの削除	56
元のゾーン設定の復元	57
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ	58
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	61
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限	62
リソースの保護	63
認証ユーザの追加および削除	64
リソースの非保護	65
サブドメインを含むサイト構造の編成	65
サブドメインの設定	66
サブドメインの削除	67
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定	68
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)	69
ドメインエイリアスの設定	70
ドメインエイリアスのプロパティの修正	71
ドメインエイリアスの削除	71
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	72
Web ページオーナーの FTP パスワードの変更	73
Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加	73
Web ページオーナーのアカウントの削除	74

メールサービスの使用 75

メールボックスの作成	76
メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定	78
Web ブラウザからのメールへのアクセス	80
スパムからのメールボックスの保護	81
メールボックスの補足的ディスポーザブルメールアドレス (メールエイリアス) の設定	82
スパムフィルタの設定	82
ウイルスからのメールボックスの保護	87
アンチウイルス保護の有効化	87
アンチウイルス保護の無効化	88
メールボックスの中断と中断解除	89
メールボックスの削除	90
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化	90
単一メールアドレスへのメール転送の設定	91

メールフォワーダの中断と中断解除.....	92
複数メールアドレスへのメール転送の設定.....	93
受信者アドレスの追加と削除.....	94
複数メールアドレスへのメール転送の無効化.....	95
メールフォワーダの削除.....	95
自動応答の設定.....	96
自動応答の無効化.....	98
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス.....	99
複数のメールアドレスに対する変更の一括導入.....	100
メールリストの保守.....	101
メールリストの設定.....	102
メールリストの設定.....	103
ユーザの登録と登録解除.....	104
メールリストへの投稿.....	104
メールリストの削除.....	104
サイト使用量統計の表示	105
WebalizerによるWeb統計表示のプリファレンスの調整.....	107
レポート生成とメールによる配信の自動化.....	108
ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定.....	109
データのバックアップおよび復元	110
FTPリポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定.....	111
ドメインのバックアップ.....	112
バックアップのスケジューリング.....	112
バックアップアーカイブからのデータの復元.....	113
バックアップファイルレポジトリの維持.....	114
バックアップファイルのサーバへのアップロード.....	114
サーバからのバックアップファイルのダウンロード.....	115
サーバからのバックアップファイルの削除.....	115
タスクのスケジューリング	115
タスクをスケジューリングするには.....	117
タスク実行の中断と再開.....	118
タスクのスケジューリング解除.....	118
コントロールパネルへの接続とFTPサービスのモニタリング	119
コントロールパネルへの接続のモニタリング.....	119
FTPサービスへの接続のモニタリング.....	120
ヘルプデスクを使用したサービスプロバイダへのサポート要求	121
サービスプロバイダへの問題レポートの提出.....	122
トラブルチケットへのコメントとクローズ.....	122

序文

このセクションの内容:

対象読者.....	6
表記規則.....	6
フィードバック.....	7

対象読者

このガイドは、Plesk コントロールパネルを通して共用または専用のホスティングパッケージへアクセスできる、単一ドメインオーナーを対象としています。

表記規則

当ガイドをご使用いただく前に、文書内の表記上の規則をご理解くださいますようお願い致します。

特殊な意味を持つ箇所は、以下のフォントで区別しています。

フォント	意味	例
特殊太字	メニューオプション、コマンドボタン、リスト内の項目など、選択する必要がある項目。	[システム] タブに進みます。
	章、セクション、サブセクションのタイトル。	「基本管理」の章をご参照ください。
斜体	初出用語または実際の名前や値に置き換えられるコマンドラインのプレースホルダーの指定などの、重要な箇所を強調。	システムはいわゆる <i>ワイルドカード</i> 文字検索に対応しています。

固定幅	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。	ライセンスファイルは http://docs/common/licenses ディレクトリにあります。
書式設定済み	コマンドラインセッションでのコンピュータ画面上への出力、XMLやC++やその他のプログラミング言語のソースコード。	<pre># ls -al /files total 14470</pre>
書式設定済み太字	入力した文字をコンピュータ画面上の出力と区別。	<pre># cd /root/rpms/php</pre>
アルファベット大文字	キーボード上のキーの名前	SHIFT、CTRL、ALT
KEY+KEY	ユーザがあるキーを押しながら他のキーを押す必要があるキーの組み合わせ。	CTRL+P、ALT+F4

フィードバック

当ガイドの表記ミスを見つけた場合や、当ガイドをより良いものにするアイデアがある方は、sales@swsoft.co.jp宛てにお知らせいただければ幸いです。間違いを見つけた場合は、章、セクション、サブセクション名や該当部分の文章を提示して問題を特定しやすいようにしてくださいませようお願い致します。

はじめに

この章の内容:

Plesk へのログイン	8
Plesk のインターフェースに慣れる	9
連絡先情報とパスワードの変更	13

Plesk へのログイン

- *Plesk コントロールパネルにログインするには、以下を実行してください。*
- 1 Webブラウザを開き、アドレスバーにPleskコントロールパネルの配置されているURL(例：<https://your.domain.com:8443>)を入力します。
 - 2 ENTERを押します。
Plesk ログイン画面が開きます。
 - 3 [ログイン] ボックスと [パスワード] ボックスに、プロバイダーから与えられたログイン名とパスワードをそれぞれ入力します。
ログイン名がドメイン名になります。
 - 4 初めてログインする場合、コントロールパネルで使用する言語を [インターフェース言語] ドロップダウンボックスで選択します。
以前にインターフェイス言語を指定し、それをインターフェースのプリファレンスに保存している場合は、[ユーザデフォルト] を選択したままにします。
 - 5 [ログイン] をクリックします。

Plesk のインターフェースに慣れる

コントロールパネルにログインすると、標準表示または簡略化されたデスクトップ表示あるいはこの2つの組み合わせで画面が開きます。標準表示はコントロールパネルが2つのメインエリアを持つ従来どおりの表示方法です。ナビゲーションペインが左側、操作が実行されるメイン画面が右側にあります。

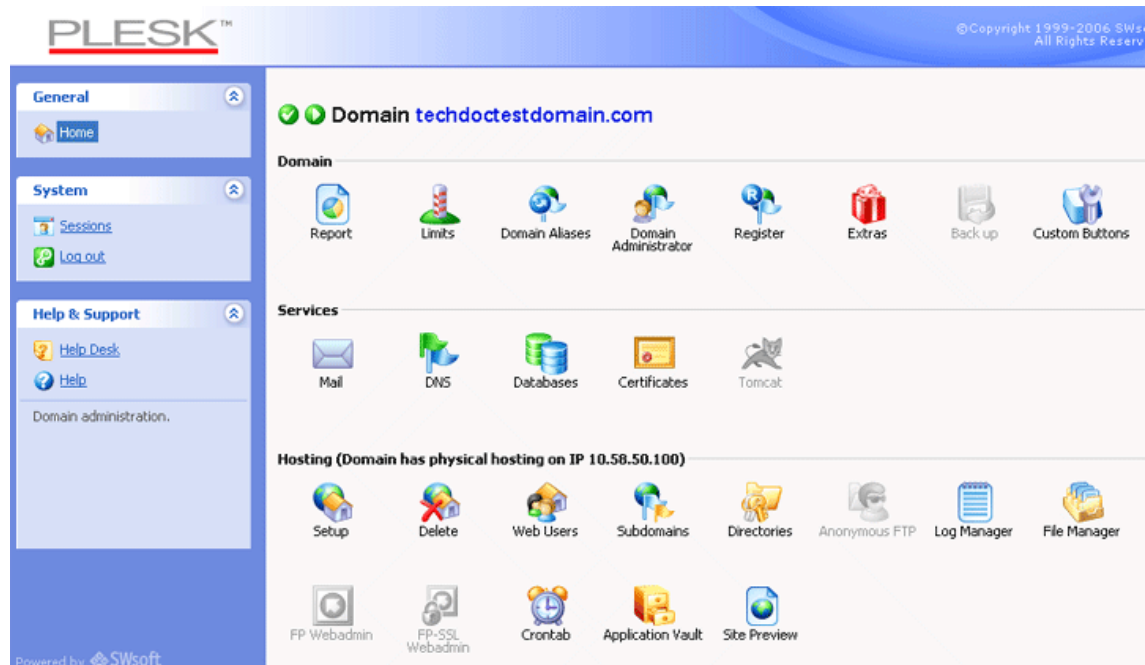


図 1: ドメイン管理者の標準GUI

デスクトップ表示はサーバ統計値や使用頻度の高い操作へのショートカットが表示され、必要な項目すべてが1つの画面に表示されます。



図2: ドメイン管理者のデスクトップビュー画面

ホスティングプランに、SitebuilderによるWebサイトの作成および管理サービスが含まれている場合、以下のショートカットもコントロールパネルのナビゲーションペインに表示されます。

- **デスクトップ。** タスク指向のウィザードへのショートカットが提供されます。ここから、Sitebuilderシステム経由でアカウントおよびWebサイト上のあらゆる操作を実行できます。詳細は http://download1.swsoft.com/SiteBuilder/4.0.0/doc/site_owner/ja_JP/html/using_desktop_interface.htm をご覧ください。
- **サイト。** ここでサイトを追加および管理できます。詳細は http://download1.swsoft.com/SiteBuilder/4.0.0/doc/site_owner/ja_JP/html/managing_sites.htm をご覧ください。

また、ホームページに [Sitebuilder ウィザード] ボタンが表示されます。それを使用して Sitebuilder Web サイト作成および管理ウィザードにアクセスします。詳細は「Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開」（30 ページ）のセクションをご覧ください。

このセクションの内容:


標準表示の項目	11
デスクトップ表示の項目	11

標準表示の項目

ナビゲーションペインが左側に表示されます。様々な管理機能にアクセスできます。

- **ホーム。** Web サイトおよびメールの管理ツールです。ここにほとんどの時間を費やすことと思います。
- **セッション。** メールユーザの、コントロールパネル内のセッションやホストへのFTP 接続を管理します。セッション管理についての詳細は「コントロールパネルへの接続とFTP サービスのモニター」(119 ページ) の章をご参照ください。
- **ログアウト** コントロールパネルでの作業が終了したら、このアイコンをクリックしセッションを閉じます。
- **ヘルプデスク。** サーバ管理者やプロバイダのテクニカルサポートに問題を報告するときに使用します。この機能の詳細は [ヘルプデスクを使用したサービスプロバイダへのサポート要求] (121 ページ) の章をご参照ください。
- **ヘルプ。** 文脈で検索可能なヘルプを提供します。

[ヘルプ] アイコンの下にはコンテキストヘルプヒントエリアがあります。ここでは現在の画面の説明や操作可能なオペレーションの概略が表示されます。マウスポインタをシステムの要素や状態アイコンの上に持ってくると、追加的な情報が表示されます。

Plesk のナビゲートにはパスバーを使用することもできます。画面右側のバナーエリアの下に一連のリンクが表示されます。前の画面に戻るには、画面右上の  [上へ] をクリックします。

長いリストから項目を見つけたい場合は、すべての項目リストの上にある検索ボックスを使用します。入力ボックスに検索基準を入力し [検索] をクリックします。検索条件にマッチする項目のリストが表示されます。全ての項目の表示に戻るには [全て表示] をクリックします。検索エリアは [検索非表示] をクリックすれば非表示にできます。非表示の検索エリアを表示するには [検索表示] をクリックします。


特定のパラメータでリストを昇順または降順に並び替えるには、カラムのヘッダ一部分のパラメータ名をクリックします。パラメータタイトルの隣の小さな三角印は並び順を表します。

標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズを行うには、「標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ」(17 ページ) セクションをご参照ください。

デスクトップ表示の項目

デスクトップ表示には最初に以下の3つのセクションがあります。

- **ツール。** このグループはコントロールパネルを通して実行できるオペレーションへのショートカットを表示します。これらのショートカットは自由に追加したり削除したりできます。

- **統計。** これはドメイン下のメールアカウントの数や、ディスク空き容量や毎月の帯域幅使用量や、提供されているサブドメイン（メインサイトの一部もしくは親ドメイン下の別のサイト）の数を示します。
- **お気に入り。** このグループは種類別に3つのショートカットに分けられ、それぞれのタブに配置されています。【メール名】タブはお気に入りのメールアカウントへのショートカットを表示します。【ショートカット】タブはメールユーザアカウント関連以外の全ての種類のショートカットを表示します。【履歴】タブは過去10回までに使用されたコントロールパネル画面を表示します。【お気に入り】グループはメールアカウントを検索するツールも提供します。検索ツールを使用するには、検索基準（どんな記号や文字の組み合わせでも大丈夫であり、大文字と小文字は区別されません）を入力し、【検索】をクリックします。

デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズを行うには、「デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズ」（21 ページ）セクションをご参照ください。

このセクションの内容:

ウィザードの使用..... 13

ウィザードの使用

デスクトップ表示で Plesk を使用する際、ウィザードの使用が必要なタスクがあります。それぞれのウィザードは一連の画面より成ります。ウィザードを使用してタスクを実行するには、ウィザード画面に表示される指示に従います。個別のオプションについては、このガイドのそれぞれのセクションを参照してください。

連絡先情報とパスワードの変更

➤ **連絡先情報を更新もしくはパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。**

- 1 [ドメイン] グループの [ドメイン管理者] をクリックします。
- 2 必要に応じて情報を更新もしくは新しいパスワードをパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

➤ **パスワードを忘れた場合は、以下を実行してください。**

- 1 Webブラウザのアドレスバーに、Pleskコントロールパネルの配置されているURLを入力します。例えば、<https://your.domain.com:8443>となります。
- 2 ENTERを押します。
Plesk ログイン画面が開きます。
- 3 [パスワードをお忘れですか?] リンクをクリックします。
- 4 ドメイン名を [ログイン] ボックスに、システムに登録されているメールアドレスを [メールアドレス] ボックスにそれぞれ入力します。
- 5 [OK] をクリックします。
パスワードがメールアドレスに送られます。

コントロールパネルのカスタマイズ

この章の内容:

グローバルアカウントの設定.....	14
標準表示によるコントロールパネルのカスタマイズ.....	17
デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズ.....	21

グローバルアカウントの設定

グローバルアカウントはシングルサインオン・テクノロジー機能であり、1つのグローバルログイン名およびパスワードを用いて、様々な SWsoft 製品にログインできます。Plesk に複数のアカウントをお持ちの場合、それらをすべてグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを毎回パスワードを入力せずに切り替えることができます。他の SWsoft 製品のアカウントをグローバルアカウントに接続して、それらのアカウントを証明書を入力せずに切り替えることもできます。

グローバルアカウントを作成してそれにローカルアカウントを接続すると、グローバルアカウントでログインした場合はグローバルアカウントに接続しているどのアカウントも選択できます。

注： シングルサインオン・テクノロジーおよびグローバルアカウントを使用する機能は、API またはコマンドラインユーティリティによってのみ有効にできます。シングルサインオンの有効化について詳細は、サービスプロバイダにお問い合わせいただくか関連の説明書をご覧ください。

このセクションの内容:

グローバルアカウントの作成.....	15
ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続.....	15
アカウントの切り替え.....	16
グローバルアカウントパスワードの変更.....	16
グローバルアカウントからローカルアカウントを接続解除.....	17

グローバルアカウントの作成

➤ **グローバルアカウントを作成するには以下を実行してください。**

- 1 Pleskにログインして [グローバルアカウント] に進み、 [グローバルアカウントに接続する] をクリックします。
- 2 [新しいグローバルアカウントの作成] を選択して、グローバルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

グローバルアカウントがアクティブになりましたので、そこに他のアカウントを接続することができます。詳細は「ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続」（15ページ）のセクションをご覧ください。

ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続

➤ **ローカルアカウントをグローバルアカウントに接続するには以下を実行してください。**

- 1 接続するローカルアカウントでPleskにログインします。
- 2 [グローバルアカウント] に進んで [グローバルアカウントに接続する] をクリックします。
- 3 [既存のグローバルアカウントを利用する] オプションが選択されていることを確認し、接続するグローバルアカウントのログイン名およびパスワードを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ1から4を繰り返します。

➤ **SSO対応の他の製品のアカウントをグローバルアカウントに接続するには、以下を実行してください。**

- 1 接続するアカウントで、SSO対応のソフトウェア製品にログインします。
- 2 各ソフトウェア製品の説明書の記述に従って、グローバルアカウントに接続します。既存のグローバルアカウントの証明書を提供できるようにご用意ください。

必要に応じて他のアカウントまたは製品についてもステップ1から2を繰り返します。

注： ソフトウェア製品によっては、グローバルアカウント機能の名称が異なる場合があります（Federated Identity、Global Login、など）。詳細は各ソフトウェア製品の説明書をご覧ください。

必要なアカウントをすべてグローバルアカウントに接続したら、グローバルアカウントに接続しているローカルアカウントがあるあらゆる製品において、グローバルアカウントでいつでもログインできます。グローバルアカウントでログインするたびに、そこに接続しているローカルアカウント一覧が表示されるので、その時に使用するアカウントを選択できます。いつでも好きなときに他のアカウントへ切り替えることができます。詳細は「アカウントの切り替え」（16 ページ）のセクションをご覧ください。

アカウントの切り替え

➤ **他のアカウントに切り替えるには以下を実行してください。**

- 1 右上隅の [ユーザ切替] をクリックします。
- 2 切り替え先のアカウントを選択します。
 - グローバルアカウントに接続しているアカウント一覧から、所要のローカルアカウントを選択します。
または
 - [他のアカウントのクレデンシャルを指定する] を選択して、グローバルアカウントに接続していないローカルアカウントのログイン名とパスワードを入力します。 [インターフェース言語] メニューからコントロールパネルの言語を指定することもできます。以前にそのアカウントのインターフェース言語を指定し、それをインターフェースのプリファレンスに保存している場合は、 [デフォルト] を選択したままにします。
- 3 [OK] をクリックします。

グローバルアカウントパスワードの変更

- **グローバルアカウントのパスワードを変更するには、以下を実行してください。**
- 1 グローバルアカウントまたはそこに接続しているローカルアカウントでPleskにログインします。
 - 2 [グローバルアカウント] に進んで [パスワードを変更する] をクリックします。
 - 3 今までのパスワードと新しいパスワードを入力して [OK] をクリックします。

グローバルアカウントからローカルアカウント を接続解除

➤ グローバルアカウントからローカルアカウントの接続を解除するには、以下を実行してください。

- 1 接続解除するローカルアカウントでPleskにログインします。
- 2 [グローバルアカウント]に進んで[グローバルアカウントより接続解除する]をクリックします。
- 3 接続解除を確認して [OK] をクリックします。

必要に応じて他のローカルアカウントについてもステップ 1 から 3 を繰り返します。

標準表示によるコントロールパネル のカスタマイズ

このセクションの内容:

コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定.....	18
コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの追加.....	19
コントロールパネルからのハイパーリンクボタンの削除.....	20

コントロールパネルのインターフェース言語とスキンの設定

➤ **コントロールパネルのインターフェース言語とテーマ（スキン）を選択するには以下の操作を実行して下さい。**

- 1 ホームページで [ドメイン] グループの [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
- 2 **【選択設定】** グループで、希望のインターフェース言語およびスキンをそれぞれのドロップダウンボックスから選択します。

Plesk のインターフェースは多くの言語に翻訳されていますので、ご希望の言語がリストにない場合はそのランゲージパックをインストールをプロバイダーにご依頼ください。連絡先情報もここで変更することができます。連絡先情報の変更方法については「連絡先情報の変更」（13 ページ）セクションをご参照ください。

- 3 **【OK】** をクリックします。





コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの追加

- Plesk コントロールパネルにカスタムハイパーリンクボタンを追加するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [カスタムボタン] に進み [新しいカスタムボタンの追加] をクリックします。
 - 2 以下を実行してボタンのプロパティを指定します。
 - [ボタンラベル] フィールドに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。ホームページの右フレームに配置するには [ドメイン管理者ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム (ナビゲーションペイン) に貼付するには [ナビゲーションペイン] 値をクリックします。
 - ボタンの優先度を指定します。Plesk は定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。
 - ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、[参照] をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
 - ボタンに付加するハイパーリンクを [URL] フィールドに入力します。
 - チェックボックスを使用して、URL 内に転送されるドメイン ID やドメイン名などのデータを含むかどうか指定します。これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
 - [マウスオーバーヘルプ] 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
 - 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、[コントロールパネルの中に URL を開く] チェックボックスをチェックして下さい。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くことになります。
 - このボタンをコントロールパネルにアクセスしているメールボックスユーザからも見えるようにするには、[他のユーザに表示します] チェックボックスをチェックします。
 - 3 作成を完了したら [OK] をクリックします。


コントロールパネルからのハイパーリンクボタンの削除

- コントロールパネルからハイパーリンクボタンを削除するには、以下を実行します。
 - 1 [ツール] グループの [カスタムボタン] をクリックします。
 - 2 削除するボタンに対応するチェックボックスを選択します。
 - 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。


デスクトップ表示によるコントロールパネルのカスタマイズ

- デスクトップから項目を追加または削除するには以下を実行します。
- 1 [デスクトップ] >  [デスクトップをカスタマイズ] に進みます。
 - 2 [ツール] グループで、コントロールパネルから実行したいタスクを指定します。デスクトップに適切なショートカットが配置されます。[選択済みタスク] リストはどのショートカットが既にデスクトップに配置されているを示します。[利用可能なタスク] リストはデスクトップにまだショートカットが配置されていないタスクを示します。
 - デスクトップにショートカットを追加するには、[利用可能なタスク] リストで必要なタスクを選択し [追加>>] をクリックします。
 - デスクトップからショートカットを削除するには、[選択済みタスク] リストから必要のないタスクを選択し [<<削除] をクリックします。
 - 3 デスクトップでカスタムボタンを表示するには、[カスタムボタン] チェックボックスを選択します。
 - 4 デスクトップの一番下に新規のカスタムハイパーリンクボタンを作成するショートカットを表示するには、[新規ドメインカスタムボタンの作成] チェックボックスを選択します。
 - 5 [統計] および [お気に入り] グループを表示するかどうかと、そこに何の項目を表示するかを指定します。チェックボックスの選択を外すとその項目がデスクトップから削除されます。[お気に入り] グループは項目へのリンクやデスクトップに追加されたコントロールパネル画面を示します。それぞれのコントロールパネル画面で  [ショートカットの作成] または  [お気に入りに追加] をクリックして選択した項目が、このグループに含まれます。
 - 6 [OK] をクリックします。
- デスクトップの [お気に入り] グループにメールアカウントを追加するには以下を実行します。
- 1 [メール] > [メールアドレス] に進み、画面右上隅の  [お気に入りに追加] をクリックします。
 - 2 デスクトップショートカットラベルとその説明を指定します。
 - 3 [OK] をクリックします。


➤ デスクトップの [お気に入り] グループに項目を追加するには以下を実行します。

- 1 必要なコントロールパネル画面に進みます。
- 2 画面右上隅の  [ショートカットの作成] をクリックします。
- 3 デスクトップショートカットラベルとその説明を指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

➤ デスクトップの [お気に入り] グループから項目を削除するには以下を実行します。

- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをクリックします。
- 2 画面右上隅の  [お気に入りの編集] をクリックします。
- 3 [削除] をクリックします。

または

- 1 デスクトップ上で削除したいショートカットをに対応する  アイコンをクリックします。
- 2 [削除] をクリックします。

ホスティングパッケージのレビュー

プロバイダからアカウント内でホスティングのオプションを管理する権限を与えられている場合に、アカウント内で有効なホスティング機能をレビューもしくは選択するには以下を実行します。

- 1 ホームページで **[設定]** をクリックします。
- 2 以下のホスティングオプションを表示または変更します。
 - **IP アドレス** ドメインは専用 IP アドレスでも共用 IP アドレスでもホスト可能です。サービスプロバイダの IP アドレスプールからアドレスを選択してください。
 - **証明書** サイトで使用されている SSL 証明書を示します。
 - **SSL 対応**。 Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化は一般に専用 IP アドレス上で実行される e-コマース Web サイトでのオンライントランザクションの間の機密データの転送を保護するために使用されます。暗号化プロセスに参加する SSL 認証は、通常単一の IP アドレス上の単一のドメイン名に適用されます。そこで、SSL プロテクションを必要とする各サイトは専用 IP アドレス上でホストされる必要があります。例外はサブドメインで、ここではワイルドカード認証で保護することができます。単一のアドレス（共有またはネームベースホスティング）上で異なるドメイン名を持ついくつかの Web サイトをホストする Web サーバ上に SSL 認証をインストールすることは技術的に可能ですが、この方法はお奨めしません。暗号化は行われますが、セキュアサイトに接続しようとすると、ユーザに警告メッセージが表示されます。Web サイト用の SSL 暗号化を許可するには、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択してください。
 - **SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する**。デフォルトでは、ユーザが FTP アカウントを通じてサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して `httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。単一の場所（`httpdocs` ディレクトリ）を通じてすべてのコンテンツを公開するのに便利なように、**[SSL 認証を受けないコンテンツと同じディレクトリに、SSL 認証を受けるコンテンツを設置する]** チェックボックスを選択してください。
 - **FTP ログインおよび FTP パスワード** FTP 経由のサーバへのサイトを発行するのに使用するユーザ名およびパスワードを指定します。**[パスワードの確認]** ボックスでパスワードを再入力してください。

- **ハードディスククォータ。** このサイトの Web スペースに割り当てるディスク容量をメガバイト単位で指定します。これは、制限に達した場合にさらに多くのファイルを Web スペースに書き込めないようにする、いわゆるハードクォータです。ファイルを書き込もうとすると、ユーザには「ディスクの空き容量不足」エラーが発生します。ハードクォータはサーバのオペレーティングシステムで有効化されます。[ハードディスククォータ] フィールドで「ハードディスククォータ対応なし」という旨のコメントが表示されていて、ハードクォータを使用したい場合は、プロバイダまたはサーバ管理者に連絡してクォータを有効にするよう依頼してください。
- **FTP ユーザの 信用情報でのサーバへ Shell アクセスする** これにより、Secure Socket Shell 接続を通じて信頼性を持って Web コンテンツをサーバにアップロードできます。ただし、Shell アクセスを許可することによってもサーバセキュリティに対する潜在的な脅威がもたせられます。そこで、Shell アクセスを許可しないことをお奨めします。[禁止] オプションを選択したままにしてください。
- **FrontPage 対応** Microsoft FrontPage は人気のある Web サイト開発ツールです。ユーザが Microsoft FrontPage を通じてサイトを公開したり、修正したりできるように、[FrontPage 対応] および [FrontPage over SSL 対応] チェックボックスを選択し、[FrontPage オーサリング] オプションを [有効] に設定して、[FrontPage 管理者ログイン] および [パスワード] を指定します。
- **ホスト環境が対応するプログラミングおよびスクリプト言語** 以下のどのプログラミング言語またはスクリプト言語が Web サーバにより割り込み、実行または処理されるのかを指定します。Active Server Pages (ASP)、Server Side Includes (SSI)、PHP hypertext preprocessor (PHP)、Common Gateway Interface (CGI)、Fast Common Gateway Interface (FastCGI)、Perl、Python、ColdFusion および Miva e-コマースソリューションに必要な Miva スクリプト。
- **Web 統計。** サイトや表示したサイトのページの訪問者の人数に関する情報を表示できるようにするために、[Web 統計] メニューからプログラムを選択し (AWStats が推奨です)、[パスワードで保護されたディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能] チェックボックスを選択します。これにより統計プログラムがインストールされ、このプログラムによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置します。すると以下の URL で Web 統計にアクセスすることができるようになります。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>にある Web 統計に FTP アカウントログインおよびパスワードでアクセスできます。



注：統計プログラムを切り替えた場合、前に使用していた統計プログラムで作成したレポートはすべて削除され、新しいレポートがログファイルから情報を読み取ることで作成されサーバに保存されます。つまり、1ヶ月間しかログファイルを保存しないようにシステムを構成 ([ログマネージャ] > [ログローテーション]) すると、Web統計は最後の1ヶ月間しか有効ではありません。

- **カスタムエラードキュメント。** サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。エラーページを作成してサーバ上でそのページを使用するには、[カスタムエラードキュメント] チェックボックスを選択します。
- 3 [OK] をクリックします。

この章の内容:

コントロールパネルから実行可能な操作の権限の表示 27

Web サイトおよび E-mail アカウントで使用できるリソース量を表示するには以下を実行します。

- 1 ホームページで [制限] アイコンをクリックします。
- 2 リソース割り当てが以下のように一覧で表示されます。
 - **サブドメインの上限数。** ドメインの下にホストできるサブドメインの数です。
 - **最大ドメイン エイリアス数。** サイトで使用できる追加の代替ドメイン名の数です。
 - **ディスク容量。** ホスティングアカウントに割り当てられたディスク容量の総量です。この量はメガバイトで計測されます。全てのドメインおよび Web サイトに関連する全てのファイルが占有するディスクの空き容量が含まれます。Web サイトコンテンツ、データベース、アプリケーション、メールボックス、ログファイル、そしてバックアップファイルです。いわゆるソフトクォータです。超過すると、ドメイン名や Web サイトは自動的に停止されることはなく、プロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量はドメイン名の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンで示されます。Web サイトの増加に伴いより多くのディスク容量を必要とする場合は、ホスティングプランのアップグレードをご検討ください。
 - **トラフィックの上限量。** 1 ヶ月間に Web サイトから転送可能なデータの総量をメガバイトで表示します。制限量に達すると、プロバイダのメールアドレスにその旨通知が送られ、リソースの過剰量はドメイン名の左側のコントロールパネルに表示されているアイコンで示されます。Web サイトの訪問者の増加に伴いより多くの帯域幅を必要とする場合は、ホスティングプランのアップグレードをご検討ください。

- **Web ユーザの上限数。** ドメイン内で他のユーザへホストできる個人用 Web ページの数を表示します。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関に使用されています。そういったページの Web アドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。【Web ユーザスクリプトの許可】チェックボックスが選択されていると、個人用 Web ページに組み込まれているスクリプトの実行が許可されます。詳細は「Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング」セクションを参照してください。
- **データベースの上限数** ドメイン内でホストできるデータベースの数を表示します。
- **メールボックスの上限数。** ドメイン内でホストできるメールボックスの数を表示します。
- **メールボックスクォータ。** メールメッセージおよび自動応答の添付ファイルをドメイン内の各メールボックスに格納するために割り当てるディスク容量をキロバイトで表示します。
- **メールフォワーダの上限数** ドメイン内で使用できるメールフォワーダの数を表示します。
- **メール自動応答の上限数。** ドメイン内で設定できるメール自動応答の数を表示します。
- **メーリングリストの上限数。** ドメイン内で使用できるメーリングリストの数を表示します。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されます。使用したいにもかかわらずインストールされていない場合にはサービスプロバイダにインストールを依頼してください。
- **Java アプリケーションの上限数。** ドメインにインストールできる Java アプリケーションまたはアプレットの上限数を表示します。
- **有効期間。** ホスティングアカウントの期間を表示します。この期間が終了すれば、ドメインおよび Web サイトは停止されます。その Web、FTP、メールサービスはインターネットユーザにはアクセスできなくなります。また、コントロールパネルにログインできなくなります。

3 [OK] をクリックします。

コントロールパネルから実行可能な操作の権限の表示

コントロールパネルから実行可能な操作の権限の表示

- 1 ホームページから [ドメイン管理者] アイコンをクリックします。
- 2 許可されている項目が [許可] グループに一覧表示されています。
 - **物理ホスティング管理。** Web サイトでホスティングアカウントを完全に管理できるかどうかを示します。No となっていれば、Web スペースにアクセスするための FTP パスワードの変更のみできます。
 - **FTP パスワード管理。** FTP 経由で Web スペースにアクセスする認証を変更できるかどうかを示します。
 - **サーバへの Shell アクセスの管理** サーバ shell にアクセスできるかどうかを示します。
 - **ハードディスククォータ割り当て。** サイトに割り当てられたディスクスペースにハードディスククォータを設定できるかどうかを示します。
 - **サブドメイン管理。** ドメイン内のサブドメインを設定、変更、削除できるかどうかを示します。
 - **ドメインエイリアスの管理。** Web サイトの代替ドメイン名を追加設定できるかどうかを示します。
 - **ログローテーション管理。** サイトのログファイルのクリーンアップと再利用を調整できるかどうかを示します。
 - **匿名 FTP 管理。** 全てのユーザがログインとパスワードを入力せずにファイルをダウンロードおよびアップロードできる FTP ディレクトリを持つことができるかどうかを示します。匿名 FTP サービスを使用するためには、Web サイトが専用 IP アドレスに常駐している必要があります。
 - **タスクのスケジューリング。** システム内のタスクをスケジュールできるかどうかを示します。スケジューリングされたタスクは、スクリプトまたはユーティリティの予定に沿った実行に使用できます。
 - **DNS ゾーン管理。** ドメインの DNS ゾーンを管理できるかどうかを示します。
 - **Java アプリケーション管理** Web サイトに Java アプリケーションおよび Java アプレットをインストールできるかどうかを示します。
 - **メーリングリスト管理** GNU Mailman ソフトウェアで提供されるメーリングリストを使用できるかどうかを示します。
 - **スパムフィルタ管理。** SpamAssassin ソフトウェアが提供するスパムフィルタを使用できるかどうかを示します。
 - **アンチウイルス管理。** 送受信メールのフィルタ処理のために、サーバ側のアンチウイルス保護を使用できるかどうかを示します。

- **バックアップと復元機能** コントロールパネルの機能を使用して、顧客のサイトをバックアップおよび復元できるかどうかを示します。定期的なバックアップおよびオンデマンドのバックアップの両方に対応しています。
 - **ユーザインターフェース。** 使用できるユーザインターフェースのタイプ(標準、デスクトップ、または両方)を示します。
 - **デスクトップ管理。** デスクトップインターフェースをカスタマイズおよび管理できるかどうかを示します。
- 3 [OK] をクリックします。

第 4 章

Web サイトの設定と維持

一度ドメイン名を登録して Web サイトを構成してホスティングサービスプロバイダからホスティングパッケージを購入すれば、以下のことが可能になります。

- プロバイダのサーバ上での Web スペースへのサイトの公開
- Web サーバが使用するデータベースおよびアプリケーションの展開
- Secure Sockets Layer (SSL) 暗号化によるデータ転送の保護およびパスワード保護による Web サーバリソースへのアクセスの限定

この章の内容:

サイトの作成と公開	30
サイトのプレビュー	38
データベースの配置	38
アプリケーションのインストール	42
SSL 暗号化によるサイト上のオンライントランザクションの保護	47
ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ	54
Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ	58
外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給	61
パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限	62
サブドメインを含むサイト構造の編成	65
サーバへの anonymous FTP アクセスの設定	68
サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)	69
Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング	72

サイトの作成と公開

ホスティングプランに Sitebuilder を用いた Web サイトの作成および管理サービスが含まれている場合、Sitebuilder を用いて Web サイトを作成および管理できます。あるいは、ホームまたはオフィスコンピュータにサイトコンテンツ（サイトを構成する Web ページ、スクリプト、およびグラフィックファイル）を作成して、それからそれを以下の方法のどれを使用してもサーバに公開できます。

- FTP 接続経由（最も一般的かつ簡単な方法）
- Plesk ファイルマネージャ経由
- セキュアシェル接続経由（Linux および FreeBSD オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）
- Adobe Dreamweaver または Microsoft FrontPage ソフトウェア経由（Microsoft Windows オペレーティングシステムのユーザのみ利用可）

このセクションの内容:

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開	30
FTP 経由でのサイトの公開	31
Plesk ファイルマネージャ経由でのサイトの公開	32
SSH 接続によるサイトの公開	33
Microsoft FrontPage を使用してファイルを公開する	33
Adobe Dreamweaver からのサイトの公開	37

Sitebuilder を使用した Web サイトの作成と公開

- *Sitebuilder* を使用して Web サイトの作成を開始するには、以下を実行してください。
- 1 ホームページで [Sitebuilder ウィザード] をクリックします。Sitebuilder ウィザードが開きます。
 - 2 [サイトの作成] オプションを選択して、画面下端の [次へ] をクリックします。

サイトを作成または編集する方法の詳細については、
http://download1.swsoft.com/SiteBuilder/4.0.0/doc/user/ja_JP/html/index.htm からオンラインで Sitebuilder ウィザード ユーザガイドを参照してください。

FTP 経由でのサイトの公開

- **FTP 経由でサイトをアップロードするには、以下の操作を実行します。**
- 1 プロバイダに与えられたFTPアカウント認証を使用して、FTPクライアントプログラムでサーバに接続します。
ファイアウォールを設定している場合は、パッシブモードを有効にします。
 - 2 HTTPプロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリにアップロードし、SSLプロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリにアップロードします。
 - 3 CGIスクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。
 - 4 FTPセッションを終了します。

このセクションの内容:

FTP アカウント認証の変更 31

FTP アカウント認証の変更

FTP アカウントへアクセスするユーザ名およびパスワードを変更するには以下を実行します。




- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [設定] アイコンをクリックします。
- 2 新しいFTPログイン名とパスワードを指定します。
- 3 [OK] をクリックします。

Plesk ファイルマネージャ経由でのサイトの公開

Plesk ファイルマネージャ経由でファイルをアップロードするには、以下を実行します。


- 1 Pleskコントロールパネルからドメイン管理者のアカウントにログインします。
- 2 [ホスティング] グループの [ファイルマネージャ] アイコンをクリックします。
- 3 ファイルとディレクトリを作成し、アップロードします。


HTTP プロトコル経由でアクセスするファイルとディレクトリを `httpdocs` ディレクトリに配置し、SSL プロトコル経由でセキュアに転送すべきファイルおよびディレクトリを `httpsdocs` ディレクトリに配置します。CGI スクリプトを `cgi-bin` ディレクトリに配置します。


- 現在のディレクトリ内に新しいディレクトリを作成するには、 [新しいディレクトリを追加] ボタンをクリックします。
- 必要なディレクトリに新しいファイルを作成するには、 [新しいファイルを追加] を追加します。[ファイル作成] セクションでファイル名を指定します。さらに、ファイルマネージャで新しいファイルに html タグを挿入できるようにするには、[html テンプレートを使用] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。新しいページが開くので、ここで新しいファイルのコンテンツ、つまり html 形式にフォーマットされたソースを入力します。完了したら、[OK] をクリックします。
- ローカルマシンからファイルをアップロードするには、 [新しいファイルを追加] をクリックし、[ファイルソース] ボックス（または [参照] ボタンでファイルの場所を指定します）でそのファイルの保存場所へのパスを指定して [OK] をクリックします。


Web コンテンツをファイルマネージャまたは FTP 経由でアップロードすると、コントロールパネルはファイルやディレクトリへの適切なアクセス権限を自動的に設定します。権限は「`rwX rwx r--`」などの文字の組み合わせの 3 セットで表現されます。最初のセットはそのファイルまたはディレクトリのオーナーがどのような権限を持つかを示しており、2 番目のセットはそのファイルまたはディレクトリが属するユーザグループとそのグループがファイルまたはディレクトリに対して持つ権限、3 番目のセットは他のユーザ（その際とを訪れたインターネットユーザなどのその他大勢）がファイルまたはディレクトリに対して持つ権限を現しています。R はファイルまたはディレクトリを読み取る権限、W は書き込む権限、X はディレクトリ内のファイルまたは内観を決定する権限をそれぞれ意味します。


ファイルまたはディレクトリに対する許可を変更するには、[パーミッション] の列でそのセットの許可を示すそれぞれのハイパーリンクをクリックします。必要に応じて権限を修正し [OK] をクリックします。


ファイルのソースコードを編集するには、 をクリックします。


ビルトインの Visual Editor 内の Web ページを編集するには (Microsoft Internet Explorer ユーザのみ利用可能)、 をクリックします。HTML ファイルを編集するときはデフォルトで Plesk は内部 WYSIWYG エディタを開きます。HTML ファイルのソースコードを編集するには **[Html]** をクリックします。WYSIWYG モードに戻るには **[デザイン]** をクリックします。

ファイルを表示するには  をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには  をクリックします。ここで新しい名前を入力して **[OK]** をクリックします。

ディレクトリやファイルを新しい位置にコピーまたは移動するには、チェックボックスを使って適切なディレクトリやファイルを選択して  **[コピー/移動]** をクリックします。ディレクトリやファイルがコピーされる先またはその名前を指定し、コピーをする場合は **[コピー]** を、移動する場合は **[移動]** をクリックします。

ディレクトリまたはファイルの名前を変更するには、 **[タッチ]** をクリックします。タイムスタンプが現在のローカルタイムで更新されます。

ファイルまたはディレクトリを削除するには、該当するチェックボックスを選択して  **[選択対象を削除]** をクリックします。削除を確認して **[OK]** をクリックします。

SSH 接続によるサイトの公開

ローカルコンピュータ上で Linux または FreeBSD の OS を使用しサーバシェルにアクセスするには「scp」コマンドを使用してファイルやディレクトリをサーバにコピーします。ファイルをコピーするには `scp your_file_name login@remoteserver.com:path` を、ディレクトリ全体をコピーするには `scp -r your_directory_name login@remoteserver.com:path` を指定します。

公開後、Plesk コントロールパネルに搭載されている SSH ターミナル Web アプリケーションを使用して、アカウント上のファイルやディレクトリで作業ができるようになります（**[ホーム]** > **[SSH ターミナル]**）。

Microsoft FrontPage を使用してファイルを公開する

Microsoft FrontPage は次の 2 つの Web サイトに対応しています。ディスクベースの Web サイトとサーバーベースの Web サイトです。ディスクベースのサイトとは、ローカルハードディスク上で作成した後に Web サーバに公開する FrontPage Web サイトのことです。サーバーベースのサイトとは、Web サーバ上で直接作成および作業する Web サイトで、別途の公開手続きが必要ありません。ここでは、ディスクベースの Web サイトの公開方法についてのみ説明します。

データベースの Web サイトは、FTP または HTTP を通じて公開できます。サーバが FrontPage Server Extensions を実行していれば、サイトを HTTP の場所に公開することになります 例えば、以下ようになります。 <http://your-domain.com/MyWebSite>。サーバが FTP をサポートしていれば、FTP の場所に公開することになります 例えば、以下ようになります。 <ftp://ftp.your-domain.com/myFolder>。

サーバがどの公開方法に対応しているかを調べるには、ホスティング会社もしくは IT 部門にお問い合わせください。

公開後、FrontPage Server Extensions によりサイトを管理できます。

FrontPage Server Extensions 管理インターフェースにアクセスするには、以下の操作を実行します。

- 1 Pleskにログインします。
- 2 SSLによって保護されていないサイトを管理するには、 [FP Webadmin] をクリックします。 SSLが使用できるサイトを管理するには、 [FP-SSL Webadmin] をクリックします。
- 3 FrontPage管理者のログイン名とパスワードを入力し、 [OK] をクリックします。

FrontPage server extensions の使用方法については、オンラインヘルプ（ [FP Webadmin] > [ヘルプ] ） または Microsoft の Web サイトをご参照下さい。

このセクションの内容:

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由でサイトを公開する	35
Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由でサイトを公開する	36

Microsoft FrontPage を使用して FTP 経由でサイトを公開する

仕事で使用しているコンピュータから公開する場合は、ファイアウォールの背後にある FTP で公開してもいいかどうかを IT 部門やヘルプデスクやネットワーク管理者にご確認ください。ファイアウォールの背後で公開するために何らかのソフトウェアをインストールする必要があるかどうかをご確認ください。

➤ **FTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。**

- 1 Microsoft FrontPage を開きます。
- 2 Microsoft FrontPage の Web サイトを開きます。 [ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
- 3 [リモート Web サイト] ビューに行きます。 [Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
- 4 [リモート Web サイトのプロパティ] を設定します。
 - ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
 - リモート Web サーバとして [FTP] を選択します。
 - [リモート Web サイトロケーション] ボックスに、ホスト名（例：<ftp://ftp.your-domain.com>）を入力します。
 - [FTP ディレクトリ] ボックスで、ホスティング会社から提供されたものがある場合は FTP ディレクトリに入力します。特定できるものがない場合は、空欄のままにしておいて下さい。
 - コンピュータまたはネットワークがファイアウォールによって保護されているときは、[パッシブ FTP の使用] チェックボックスを選択して下さい。
- 5 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。

[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
- 6 ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Microsoft FrontPage を使用して HTTP 経由でサイトを公開する

- *FrontPage Server Extensions* をサポートするサーバ上に HTTP 経由でファイルを公開するには、以下の操作を実行します。
- 1 FrontPage プログラムを開きます。
 - 2 FrontPage の Web サイトを開きます。[ファイル] メニューを開いて [サイトを開く] の項目を選択します。
 - 3 [リモート Web サイト] ビューに行きます。[Web サイト] タブをクリックした後、ウィンドウの下部にある [リモート Web サイト] ボタンをクリックします。
 - 4 ウィンドウの右上隅にある [リモート Web サイトのプロパティ] ボタンをクリックします。
 - 5 [リモート Web サーバタイプ] にある [リモート Web サイト] タブで、[FrontPage または SharePoint Services] をクリックします。
 - 6 [リモート Web サイトロケーション] ボックスで、フォルダやファイルを公開したいリモート Web サイトのインターネットアドレスをプロトコルを含めて（例えば、<http://www.your-domain.com>）入力するか、[参照] をクリックしてサイトの位置を決めます。
 - 7 以下のいずれかを実行します。
 - 重要な情報を妨害から守る安全な通信チャンネルを確立するため、Secure Sockets Layer (SSL) を使用するには、[暗号化接続の要求(SSL)] をクリックします。Web サーバ上で SSL 接続を行うには、公認認証局から機密保護証明を受けてサーバを設定しなければなりません。サーバが SSL をサポートしていないときは、このチェックボックスのチェックを外します。そうしないと、フォルダやファイルをリモート Web サイトに公開できません。
 - Web ページを公開する際に特定のタイプのコードを削除するには、[HTML の最適化] タブ上で希望のオプションを選択します。
 - 公開のためのデフォルト選択を変更するには、[公開] タブ上で希望のオプションを選択します。
 - 8 [OK] をクリックして、リモートサイトに接続します。
[リモート Web サイト] ビューには、ローカルおよびリモートサイトにあるファイルが表示されます。
 - 9 ウィンドウの右下隅にある [Web サイトの公開] ボタンをクリックします。

Adobe Dreamweaver からのサイトの公開

Dreamweaver からサイトを公開する前に、サイトプロパティを定義する必要があります。つまり、Dreamweaver にサイトファイルがコンピュータのどこにあるかを知らせ、サイトを公開したいサーバを指定する必要があります。

➤ *Dreamweaver* でサイトを定義するには以下を実行してください。

- 1 [サイト] メニューから [新規サイト] をクリックします。 サイト定義画面が開きます。
- 2 [高度] タブをクリックします。
- 3 [ロケール情報] カテゴリで以下を指定します。
 - [サイト名]。これが Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。
 - [ローカルルートフォルダ]。すべてのサイトファイルが保存されているコンピュータのフォルダです。例えば、c:\My Site となります。
 - [デフォルト画像フォルダ]。サイトのグラフィックファイルが保存されているフォルダを指定します。例えば、c:\My Site\images となります。
 - [HTTP アドレス]。ドメイン名を指定します。例えば、<http://your-domain.com> となります。
- 4 [カテゴリ] メニューから [リモート情報] 項目を選択します。
- 5 [アクセス] メニューから [FTP] オプションを選択します。恐らく、御社のサーバは FTP (ファイル転送プロトコル。通常、ファイルをインターネット上で転送するのに使用されます) 経由の公開をサポートしています。
- 6 以下の設定を指定します。
 - [FTP ホスト]。先頭に ftp:// を付けずに FTP ホスト名を入力します。例えば、your-domain.com となります。
 - [ホストディレクトリ]。サイトを置くサーバ上のディレクトリを指定します。ほとんどの場合、httpdocs です。
 - [ログイン名およびパスワード]。プロバイダが提供したログイン名およびパスワードを指定します。
 - [受動 FTP の使用]。コンピュータがファイアウォール内であればこのオプションを選択します。
- 7 正しいログイン名およびパスワードが指定され、Dreamweaver がサーバに接続できることを確認するために、[テスト] ボタンをクリックします。
- 8 [OK] をクリックして設定を保存します。

➤ サイトを公開するには以下を実行してください。

- 1 Dreamweaverでサイトを開きます。
- 2 [サイト]メニューで[置く]オプションを選択します(またはCtrl+Shift+Uを同時に押します)。

サイトのプレビュー

Webスペース上にサイトを公開したら、実際のホスティング環境で正しく機能しているか確認したいと思うかも知れません。たとえドメイン名に関する情報がドメインネームシステムに広がっていなくても、お好みのWebブラウザを通じてプレビューできます。ただし、プレビューにおいてはAdobe FlashとCGIスクリプトは動作しません。また、他のファイルへの絶対パス(<a href="<http://domain.tld/image.gif>"> など)を含むWebサイトやWebページにおいては、サイトプレビューは動作しません。

サイトをプレビューするには、ホームページで[ホスティング]グループの[サイトのプレビュー]アイコンをクリックします。

データベースの配置

Webサーバにデータ処理アプリケーションを組み込むか、Webページをダイナミックに生成させたい場合には、データを格納し検索するためのデータベースが必要になることでしょう。その場合、サイト用に新しいデータベースを作成するか、または以前にMySQLやPostgreSQLデータベースにバックアップしたデータを取り込むことが可能です。

このセクションの内容:

データベースの作成またはインポート.....	39
データベースユーザアカウントの作成.....	40
データベースユーザのパスワード変更.....	40
データベースユーザアカウントの削除.....	40
データベースの削除.....	41

データベースの作成またはインポート

ホスティングアカウントに新しいデータベースを作成するには、以下を実行してください。

- 1 ホームページで **[データベース]** をクリックします。
- 2 **[新しいデータベースを追加]** をクリックします。
- 3 データベースの名前を入力します。
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64文字まで）。
- 4 使用するデータベースタイプを選択します。 **MySQL** または **PostgreSQL** です。 **[OK]** をクリックします。
- 5 データベース管理者の信用情報を設定するには、 **[新しいデータベースユーザを追加]** をクリックします。
- 6 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。
- 7 **[OK]** をクリックします。

既存のデータベースを取り込むには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで **[データベース]** をクリックします。
- 2 **[新しいデータベースを追加]** をクリックします。
- 3 データベースの名前を入力します。
名前は、欧文アルファベットで始まり英数字とアンダースコアだけ使用したものにするをお奨めします（64文字まで）。
- 4 使用するデータベースタイプを選択します。 **MySQL** または **PostgreSQL** です。 **[OK]** をクリックします。
- 5 データベース管理者の信用情報を設定するには、 **[新しいデータベースユーザを追加]** をクリックします。
- 6 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 **[OK]** をクリックします。
- 7 **[ツール]** グループの **[DB WebAdmin]** アイコンをクリックします。
phpMyAdmin（または phpPgAdmin）データベース管理ツールのインターフェースが別のブラウザウィンドウに開きます。
- 8 左フレームにある **[Query window]** アイコンをクリックします。
- 9 **[ファイルのインポート]** タブをクリックします。
- 10 データが含まれているテキストファイルを選択し、 **[Go!]** をクリックします。

11 [テキストファイルよりデータを挿入する] リンクをクリックします。

データベースおよびそのコンテンツを管理するには、MySQL、PostgreSQL クライアントや Plesk コントロールパネルからアクセスできる Web ベースのデータベース管理ツール（[ホーム] > [データベース] > [データベース名] > [DB WebAdmin]）を使用して下さい。

データベースユーザアカウントの作成

Web サイトの管理を他の人たちと協力して行い、皆がデータベースにアクセスできるようにするには、別々のユーザアカウントを作成する必要があります。

- データベースユーザアカウントを作成するには、以下を実行します。
- 1 [データベース] > [データベース名] に進み、[新しいデータベースユーザを追加] をクリックします。
- 2 データベースのコンテンツにアクセスするために使用するユーザ名とパスワードを入力します。 [OK] をクリックします。

データベースユーザのパスワード変更

- データベースユーザのパスワードを変更するには、以下を実行してください。
- 1 [データベース] > [データベース名] > [データベースユーザ名] に進みます。
- 2 新しいパスワードを入力し [OK] をクリックします。

データベースユーザアカウントの削除

- データベースユーザアカウントを削除するには、以下を実行します。
- 1 [データベース] > [データベース名] に進みます。
- 2 削除するユーザアカウントに対応するチェックボックスを選択します。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

データベースの削除

- データベースとそのコンテンツを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [サービス] グループの [データベース] をクリックします。
- 2 削除するデータベースに対応するチェックボックスを選択します。
チェックボックスが灰色に表示された場合、これはこのデータベースがサイトアプリケーションによって使用され、それぞれのアプリケーションを削除することによってのみ削除できることを意味します。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

アプリケーションのインストール

Webサイトをゲストブック、フォーラム、ヒットカウンタ、フォトギャラリー、Eコマースソリューションなどの価値ある機能を持ったものにするために、Pleskアプリケーションヴォルト（[ホーム] > [Webアプリケーション]）から各アプリケーションをインストールできます。インストール可能なアプリケーションの数や種類はプロバイダの意向やホスティングプランによります。


➤ **サイトにアプリケーションをインストールするには、以下の操作を実行しません。**


- 1 ホームページで [Webアプリケーション] をクリックします。
サイトにインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。
- 2 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。
インストールできるサイトアプリケーションのリストが表示されます。
- 3 アプリケーションをインストールして展開するサイトを指定するには、それを [ターゲットドメイン] メニューで選択します。
- 4 インストールするアプリケーションを指定するには、アプリケーションに対応するオプションボタンを選択します。
- 5 [インストール] をクリックします。
- 6 アプリケーションのインターフェースにハイパーリンクを作成し、コントロールパネルに設置するかどうかを指定します。
- 7 アプリケーションが要求するインストールの選択設定や他の情報を指定し（必要な条件はアプリケーションによって異なります）、[OK] をクリックします。
- 8 Pleskコントロールパネル内にハイパーリンクボタンを作成する場合は、そのプロパティを指定して下さい。
 - [ボタンラベル] ボックスに、ボタンに表示されるテキストを入力します。
 - ボタンの配置場所を選択します。ホームページの右フレームに配置するには[ドメイン管理者ページ] 値を選択します。ホームページの左フレーム（ナビゲーションペイン）に貼付するには [ナビゲーションペイン] 値をクリックします。
 - ボタンの優先度を指定します。Pleskは定義した優先度に従ってコントロールパネル上のカスタムボタンを配置します。数字が小さいほど優先度が高くなります。ボタンは左から右へ並べられます。

- ボタン背景に画像を使用するには、その画像の保存場所へのパスを入力するか、**【参照】** をクリックしてそのファイルを参照します。ナビゲーションペインに配置するボタンの画像は 16 x 16 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを、メインフレームに配置するボタンの画像には 32 x 32 ピクセルの GIF または JPEG ファイルを使用するようお奨めします。
- **【URL ボックス】** ボックスにボタンへ付加するハイパーリンクを入力します。
- チェックボックスを使用して、URL 内に転送されるドメイン ID やドメイン名などのデータを含むかどうか指定します。これらの情報は外部の Web アプリケーションで使用できます。
- **【マウスオーバーヘルプ】** 入力フィールドには、ユーザがマウスをボタンの上にのせた際に表示されるテキストを入力します。
- 指定した URL をコントロールパネルの右側のフレームで開きたい場合は、**【コントロールパネル内にて開く URL】** チェックボックスをチェックして下さい。このチェックボックスをチェックしないと、URL は別の新しいウィンドウで開くこととなります。
- コントロールパネルへのアクセスを許可されているメールユーザからこのボタンが見えるようにするには、**【全てのサブログインに表示】** チェックボックスを選択します。
- 作成を完了したら **【OK】** をクリックします。

以上でアプリケーションがインストールされ、サイトの Web ページ（例えばホームページ）にこのアプリケーションへのリンクを挿入できます。ここでリンクを挿入しないと、このアプリケーションを利用するためにはいつも、長すぎて覚えられない URL を入力しなければなりません。

アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。

- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com/forum/>。
- **【ホーム】** > **【Web アプリケーション】** に進み、希望のアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。
- アプリケーションのインストール中に Plesk コントロールパネルへのハイパーリンクボタンの付加を選択した場合は、**【カスタムボタン】** グループもしくはナビゲーションペインでそれぞれのボタンをクリックしてください。

アプリケーションの再設定、またはアプリケーション管理者のパスワード変更、または市販のアプリケーションのライセンスキーをインストールするには、**【ホーム】** > **【Web アプリケーション】** に進み、そのアプリケーションに対応するアイコン  をクリックします。

アプリケーションを新しいバージョン（サーバで利用可能であれば）にアップグレードするには **【ホーム】** > **【Web アプリケーション】** に進み、**【U】** カラムで該当のショートカットをクリックします。

アプリケーションを削除するには [ホーム] > [Web アプリケーション] に進み、必要のないアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。そして、**×** [選択対象を削除] をクリックします。アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

このセクションの内容:

Java Web アプリケーションのインストール	45
Ruby Web アプリケーションのインストール.....	46

Java Web アプリケーションのインストール

Java Web アプリケーションパッケージを Web アーカイブ形式 (WAR) でインストールできます。これらの Java アプリケーションは Plesk には同梱されておりませんので、別途入手する必要があります。

➤ **Java Web アプリケーションをインストールするには以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進み、[スイッチオン] をクリックします。

すると、Web サーバと連動する Java コードに環境を提供する Tomcat サービスが開始します。




- 2 [J新しいアプリケーションをインストール] をクリックします。
- 3 インストールしたいアプリケーションパッケージへのパスを指定するか（コンピュータのハードドライブに保存している WAR 形式のアプリケーションパッケージでも構いません）、[参照] をクリックして検索し、[OK] をクリックします。

これでアプリケーションはインストールされ、その Java アプリケーションのリストにそれぞれの項目が追加されます（[Webアプリケーション]>[Javaアプリケーション]）。

➤ **Java Web アプリケーションの Web インターフェースにアクセスするには、以下のいずれかを実行します。**

- ホームページから [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進み、[パス] カラムでそれぞれのハイパーリンクをクリックします。
- ブラウザに URL を入力します。例えば、以下のようになります。
<http://your-domain.com:9080/storefront/>

➤ **Java Web アプリケーションを停止、開始、再開するには、以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進みます。インストールされたアプリケーションのリストが開きます。
- 2 リストでアプリケーションを検索し、リストの右側にあるアイコンを使用して必要な操作を行ってください。
 - アプリケーションを起動するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを停止するには、アイコン  をクリックします。
 - アプリケーションを再起動するには、アイコン  をクリックします。

➤ **Java Web アプリケーションをアンインストールするには以下を実行してください。**

- 1 ホームページから [Webアプリケーション] > [Javaアプリケーション] タブに進みます。

- 不要になったアプリケーションに対応するチェックボックスを選択します。✕ [選択対象を削除] をクリックして、削除を確認し [OK] をクリックします。

アプリケーションは削除され、そのデータベースもサーバから削除されます。

Ruby Web アプリケーションのインストール

Ruby プログラミング言語で開発されたカスタム Web アプリケーションをサイトにインストールすることができます。

- *Ruby で記述されたアプリケーションをサイトにインストールするには以下を実行してください。*
- ホームページの [ホスティング] で [セットアップ] をクリックします。
 - [CGI] および [FastCGI] チェックボックスを選択して [OK] をクリックします。
 - FTPアカウントに接続して /htdocsディレクトリに変更し、アプリケーションファイルを置くサブディレクトリを作成します。ここではそのディレクトリを分かりやすいように `your_application` とします。
 - アプリケーションファイルを `htdocs/your_application` ディレクトリにアップロードします。
 - このディレクトリにファイルを `.htaccess` という名前で作成し、好きなテキストエディタで開き以下の行を追加します。

```
RewriteEngine On RewriteRule ^$ /public/index.html [L]
RewriteCond %{REQUEST_URI} !^/your_application/public

RewriteRule ^(.*)$ /public/$1 [L] RewriteCond
%{REQUEST_FILENAME} !-f RewriteRule ^(.*)$
public/dispatch.fcgi/$1 [QSA,L]
```

- ファイルを保存します。
- ファイル `your_application/public/.htaccess` を削除します。
- ファイル `your_application/public/dispatch.fcgi` をテキストエディタで開き以下の行を追加します。 `#!/usr/bin/ruby`
- ファイルを保存します。

これで Web アプリケーションが以下の URL からアクセスできるようになります。

http://your-domain.com/your_application

SSL 暗号化によるサイト上のオンライン インタランザクションの保護

クライアントが E-コマースビジネスを運営している場合、クライアントのサイトと顧客間でのインタランザクションを安全に行うことが必要です。クレジットカード番号やその他の個人情報など価値の高いデータが盗まれないようにするためには、Secure Sockets Layer プロトコルを使用して下さい。これはデータをすべて暗号化し、SSL 接続により安全に転送します。また、たとえ誰かが悪意でデータを傍受しても、そのデータを解読し使用することはできないでしょう。

Web サーバにセキュアソケットレイヤープロトコルを実装するには、信頼できる認証ベンダー（このようなベンダーを認証局という）から SSL 証明書を購入し、サイトにこの証明書をインストールして下さい。SSL 保護を有効にするには、他の Web サイトと共有しない専用の IP アドレス上にサイトを設置する必要があります。

認証局は多くありますので、その中から選んで下さい。選択時には認証局の評判や信用性を考慮します。認証局の運営年数や顧客数などについて調べておくと、選択時に役立つことでしょう。

Plesk コントロールパネルでは、GeoTrust, Inc から SSL 証明書を購入できるようになっています。

このセクションの内容:

SSL 証明書を GeoTrust, Inc. または GoDaddy から入手してインストール.....	48
SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール.....	50
無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール.....	52
証明書をサイトからアンインストール.....	53

SSL 証明書を GeoTrust, Inc. または GoDaddy から入手してインストール

➤ MyPleskCom オンラインストアを通じて SSL 証明書を購入し、サイトを保護するには、以下の操作を実行します。

- 1 [証明書] に進んで [新しい証明書を追加] をクリックします。
- 2 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。 省略形でないものにしてください。 例: www.your-domain.com) 。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
- 3 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。 [証明書を購入] をクリックします。

秘密鍵と証明書署名リクエストが生成されますので、これは削除しないでください。 MyPlesk.com ログインページが新しいブラウザウィンドウで開きます。

- 4 既存の MyPlesk.com アカウントへ登録またはログインし、ステップバイステップの手順に従って証明書を購入します。
- 5 購入したい証明書の種類を選択します。
- 6 [購入する] をクリックし、証明書を注文します。
- 7 [承認者メールアドレス] ドロップダウンボックスで、正しい承認者メールアドレスを選択します。

承認者メールアドレスは、特定のドメイン名の証明書が権限を持つユーザによりリクエストされたことを確認するためのメールアドレスです。

証明書リクエストが処理されると確認のメールが送信されます。 承認すると SSL 証明書がメールで送信されます。

- 8 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
- 9 SSL 証明書レポジトリへ戻ります ([ホーム] > [証明書]) 。
- 10 [参照] をクリックして保存された証明書を検索します。
- 11 保存された証明書をクリックし、 [ファイル送信] をクリックします。
対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。
- 12 ホームページに戻り [ホスティング] グループの [設定] をクリックします。


13 **【証明書】** ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を
選択します。

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は**【証明書】** ドロップダウンボ
ックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレー
ドしてホスティングプロバイダから専用IPアドレスを購入する必要があります。

14 **【SSL対応】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

SSL 証明書を他の認証局から入手してインストール

- **他の認証局からの SSL 証明書を使用してサイトを保護するには、以下の操作を実行します。**
- 1 [証明書] に進んで [新しい証明書を追加] をクリックします。
 - 2 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。 リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。 SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。 1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。 入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメインの名前の指定。 省略形でないものにしてください。 例: www.your-domain.com) 。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
 - 3 この情報をもとに秘密鍵が生成されるため、間違いがないかよく確認してください。 [リクエスト] をクリックします。

秘密鍵と証明書署名リクエストが生成され、リポジトリに格納されます。
 - 4  をクリックして、証明書署名リクエスト (CSR) ファイルをダウンロードし自分のマシンに保存します。
 - 5 ダウンロードが完了したらファイルをテキストエディタで開き、テキストを `-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----` から `-----END CERTIFICATE REQUEST-----` までクリップボードにコピーします。 `-----BEGIN CERTIFICATE REQUEST-----` および `-----END CERTIFICATE REQUEST-----` の行も証明書署名リクエストの一部であるため、必ず含めるようにしてください。
 - 6 お好みのメールクライアントソフトウェアを使用し、新しいメールメッセージを作成し、テキストをクリップボードから貼り付けます。
 - 7 このメッセージを認証局に送信します。 認証局はあなたが提供した情報に応じて SSL 証明書を作成します。
 - 8 受信した SSL 証明書はローカルマシンかネットワークに保存してください。
 - 9 SSL 証明書レポジトリへ戻ります ([ホーム] > [証明書]) 。
 - 10 ページの中央にある [参照] をクリックし、保存された証明書のある場所へ行きます。
 - 11 証明書をクリックし、 [ファイル送信] をクリックします。

対応する秘密鍵に対する証明書がアップロードされインストールされます。

- 12 ホームページに戻り [ホスティング] グループの [設定] をクリックします。
- 13 [証明書] ドロップダウンボックスからインストールするSSL証明書を
選択します。
ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は [証明書] ドロップダウンボ
ックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレー
ドしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
- 14 [SSL対応] チェックボックスを選択し、 [OK] をクリックします。

無料の自己署名 SSL 証明書の作成とインストール

顧客が証明書を購入する必要がなく、接続セキュリティが必要になる場合、自己署名証明書を作成し、Web サーバにインストールできます。この機能によりデータを暗号化できますが、顧客のブラウザには、認証された機関により証明書が発行されていないことを伝える警告メッセージが表示されます。このように、自己署名証明書の使用は顧客から信用を得られず、顧客のオンライン販売に悪影響を及ぼす可能性があるため、推奨されません。


➤ **サイトを自己署名 SSL 証明書で保護するには、以下の操作を実行します。**

- 1 **【証明書】に進んで【新しい証明書を追加】をクリックします。**
- 2 証明書のプロパティを指定します。
 - 証明書の名前。リポジトリ内で証明書を識別するのに役立ちます。
 - 暗号化レベル。SSL 証明書の暗号化レベルを選択します。1024 ビット以上を選択するようお勧めします。
 - 場所と組織名の指定。入力できるのは 64 文字までです。
 - SSL 証明書を購入するドメイン名を指定します 省略形でないものにしてください。例：www.your-domain.com。
 - ドメイン管理者のメールアドレスの入力。
- 3 **【自己署名】をクリックします。**

証明書が生成され、リポジトリに格納されます。
- 4 ホームページに戻り **【ホスティング】グループの【設定】をクリックします。**
- 5 **【証明書】ドロップダウンボックスから、自己署名 SSL 証明書を選択します。**

ご自身が共用ホスティングアカウントだった場合は **【証明書】** ドロップダウンボックスが画面に表示されません。その場合、ホスティングパッケージをアップグレードしてホスティングプロバイダから専用 IP アドレスを購入する必要があります。
- 6 **【SSL対応】** チェックボックスを選択し、**【OK】** をクリックします。

証明書をサイトからアンインストール

- 証明書をサイトからアンインストールし、SSL 保護を無効にするには、以下の操作を実行します。
- 1 削除する必要がある証明書が使用中でないことを確認します。
 1. ホームページで [セットアップ] をクリックします。
 2. [証明書] ドロップダウンボックスに、現在使用中の SSL 証明書が表示されます。
 3. 削除したい証明書が使用中だった場合、まずその使用を終了しなければなりません。[証明書] ドロップダウンボックスから他の証明書を選択し [OK] をクリックして下さい。
 - 2 リポジトリから証明書を削除します。
 1. リポジトリからその証明書を永久に削除するには、ホームページで [サービス] グループの [証明書] をクリックします。
 2. 不要になった証明書に対応するチェックボックスを選択し、 [選択対象を削除] アイコンをクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。
 - 3 SSL対応が不要になった場合は、無効にします。
 1. ホームページで [セットアップ] をクリックします。
 2. [SSL対応] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

ドメインの DNS ゾーン設定のカスタマイズ

コントロールパネルは新しいドメイン名に対して自動的に、プロバイダが定義した構成事前設定に従って DNS ゾーンを作成します。ドメイン名は自動設定に適合する必要がありますが、ドメイン名ゾーンのカスタム変更を実行する必要がある場合、これをコントロールパネルを使用して行うことができます。

ドメインの DNS ゾーン内のリソースレコードを表示するには、[サービス] グループの [DNS 設定] をクリックしてください。画面にドメインの全リソースレコードが表示されます。

ドメインエイリアスの DNS ゾーンのリソースレコードを修正する方法については、「サイトの追加ドメイン名の設定 (ドメインエイリアス)」 (69 ページ) セクションを参照してください。

このセクションの内容:

リソースレコードの追加	55
リソースレコードの変更	56
リソースレコードの削除	56
元のゾーン設定の復元	57

リソースレコードの追加

ゾーンに新しいリソースレコードを追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 2 [ツール] グループの [新しいレコードを追加] アイコンをクリックします。
- 3 リソースレコードのタイプを選択し、適切なデータを指定します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。ドメインに単に A レコードを設定する場合は、入力フィールドは空欄にしてください。A レコードをネームサーバのために設定する場合は、ネームサーバのための適切な入力(例: ns1)をする必要があります。次に適切なドメイン名と関連づける IP アドレスを入力します。
 - A レコードでは A レコードを作成するドメイン名を入力する必要があります。ドメインに NS レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次に適切なネームサーバの名前を入力フィールドに入力します。この名前はフルネームである必要があります(例: ns1.mynameserver.com)。
 - MX レコードでは MX レコード作成するドメイン名を入力する必要があります。ドメインに MX レコードを設定する場合は、入力フィールドを空欄にしてください。次にメールエクスチェンジャを入力します。これはあなたのメールサーバの名前です。リモートで 'mail.myhostname.com' という名前のメールサーバを稼働させている場合は、'mail.myhostname.com' と入力フィールドに入力します。次にメールエクスチェンジャの優先度を設定する必要があります。ドロップダウンボックスを使用して、優先度を選択します。0 が最高の優先度、50 が最低の優先度となります。リモートのメール交換サーバを使用する場合は、適切な A レコードおよび/または CNAME レコードを追加する必要があります。
 - CNAME レコードでは、まず CNAME レコードを作成するエイリアスドメイン名を入力します。次にエイリアスをつけるドメイン名を入力します。どのようなドメイン名を入力することも可能です。これは同じサーバ上である必要はありません。
 - PTR レコードでは、まずポインターを設定する IP アドレス/マスクを入力します。次にこの IP を移送する適切なドメイン名を入力します。
 - TXT レコードでは、SPF レコードの説明など、任意のテキスト文字列を入力できます。
- 4 [OK] をクリックしてデータを送信します。

リソースレコードの変更

リソースレコードのプロパティを修正するには、以下の操作を実行します。

- 1 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 2 修正したいリソースレコードに対応する [ホスト] 列内のハイパーリンクをクリックします。
- 3 必要に応じてレコードを修正し [OK] をクリックします。

ドメインの SOA レコード内のエントリを修正するには、以下を実行します。

- 1 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 2 [SOAプリファレンス] をクリックします。
- 3 希望する値を指定します。
 - [TTL] 他の DNS サーバがそのレコードをキャッシュに保存するまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 日です。
 - [更新] セカンダリネームサーバがプライマリネームサーバに対して、ドメインゾーンのファイルへ何か変更が加えられたかどうかを確認する頻度です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
 - [再試行] セカンダリサーバが失敗したゾーン転送を再試行するまで待つ時間です。この時間は更新インターバルよりは短いのが普通です。Plesk のデフォルト値は 1 時間です。
 - [期限切れ] そのゾーンが変更または更新されなかった場合、更新インターバルが経過した後、セカンダリサーバが問い合わせに回答するのを止めるまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 1 週間です。
 - [最小値] セカンダリサーバが負の応答をキャッシュするまでの時間です。Plesk のデフォルト値は 3 時間です。
- 4 [OK] をクリックします。

リソースレコードの削除

➤ ゾーンからリソースレコードを削除するには、以下を実行します。

- 1 [サービス] グループの [DNS設定] をクリックします。
- 2 削除したいレコードに対応するチェックボックスを選びます。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

元のゾーン設定の復元

サーバ規模の DNS 設定に従って、元のゾーン設定を復元するには、以下を実行します。

- 1 [サービス] グループの [DNS] アイコンをクリックします。
- 2 [IPアドレス] ドロップダウンボックスで、そのゾーンを復元するために使うIPアドレスを選択して、wwwエイリアスがそのドメインに必要なかどうかを指定して [デフォルト] ボタンをクリックします。ゾーン設定が再作成されます。

Web サーバのエラーメッセージのカスタマイズ

サイトを訪れているビジターが Web サーバが見つけれられないページを要求する場合、Web サーバによりエラーメッセージを伴った標準の HTML ページが生成され、表示されます。標準のエラーメッセージにより問題が伝えられる場合がありますが、通常は問題の解決方法または問題の発生したビジターが通常の作業に戻る方法は述べられず、明確になりません。

個人用のエラーページを作成し、個人の Web サーバで使用することができます。Plesk では、以下のエラーメッセージをカスタマイズできます。

- **400 Bad File Request.** 通常は URL で使用される構文の間違い（大文字は小文字にする、句点の間違いなど）を意味します。
- **401 Unauthorized.** サーバはクライアントからの暗号化キーを要求していますが取得できません。また、入力したパスワードが間違っている場合があります。
- **403 Forbidden/Access denied.** 401 に類似したエラーです。サイトにアクセスするために特別な許可（登録の場合にはパスワードおよび/またはユーザ名）が必要になります。
- **404 Not Found.** サーバは要求されたファイルを検索できません。ファイルは移動または削除されています。あるいは入力された URL またはドキュメント名が間違っています。これは最も一般的なエラーです。
- **405 Method Not Allowed.** リクエスト-ラインで指定した方法が、リクエスト-URI が同定するリソースに許可されていません。
- **406 Not Acceptable.** リクエストが同定するリソースは、リクエストで送信されたヘッダに許可されていないコンテンツ特性を持つ応答エンティティの生成にのみ有効です。
- **407 Proxy Authentication Required.** このコードは 401 (Unauthorized) に似ていますが、クライアントはまず自分をプロキシで認証しなければならないことを表しています。
- **412 Precondition Failed.** 1 つ以上の [リクエスト-ヘッダ] フィールドに指定された前提条件をサーバでテストしたところ、誤っていると判断されました。この応答コードによってクライアントは現行のリソースメタ情報（[ヘッダ] フィールドのデータ）の前提条件を調整し、リクエストした方法が意図したリソース以外に適用されることを防ぎます。

- **414 Request-URI Too Long.** サーバが解釈可能である長さよりもリクエスト-URIのほうが長い場合、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。これは稀なケースであり、クライアントが POST リクエストを GET リクエストに長いクエリ情報と一緒に不適切に変換した場合、あるいはクライアントが転送の URI 「ブラックホール」に陥った（例えば転送された URI プレフィックスがそれ自身のサフィックスを指している）場合、あるいはサーバが、リクエスト-URI を読み取るまたは操作するための固定長のバッファを使用しているサーバが提供するセキュリティホールを突破しようとしているクライアントによって攻撃されている場合に限り発生することがあります。
- **415 Unsupported Media Type.** リクエストのエンティティが、リクエストした方法のリソースがサポートしていない形式であるため、サーバはリクエストへのサービスを拒否します。
- **500 Internal Server Error** サーバコンフィグレーション上の問題により、HTML 文書を取得できませんでした。
- **501 Not Implemented.** サーバはリクエストを遂行するのに必要な機能をサポートしていません。これは、サーバがリクエスト方法を認識せず、あらゆるリソースに対してそれに対応する機能がない場合の応答コードです。
- **502 Bad Gateway.** ゲートウェアまたはプロキシとして動作しているサーバが、リクエストを遂行しようとしてアクセスしたアップストリームサーバから無効な応答を受け取りました。

カスタムエラーページを表示するように Plesk の Web サーバを設定するには、以下の操作を実行します。

- 1 Pleskでカスタムエラー文書のサポートをオンにします。 ホームページで必要なドメイン名をクリックし、**[設定]** アイコンをクリックします。 **[カスタムエラードキュメント]** チェックボックスを選択します。 **[OK]** をクリックします。
- 2 Pleskサーバ上のFTPアカウントに接続してerror_docsディレクトリに移動します。
- 3 各ファイルを編集または置き換えます。正しいファイル名が維持されていることを確認します。
 - 400 Bad File Request - bad_request.html
 - 401 Unauthorized - unauthorized.html
 - 403 Forbidden/Access denied - forbidden.html
 - 404 Not Found - not_found.html
 - 405 Method Not Allowed - method_not_allowed.html
 - 406 Not Acceptable - not_acceptable.html
 - 407 Proxy Authentication Required - proxy_authentication_required.html
 - 412 Precondition Failed - precondition_failed.html

- 414 Request-URI Too Long - request-uri_too_long.html
 - 415 Unsupported Media Type - unsupported_media_type.html
 - 500 Internal Server Error - internal_server_error.html
 - 501 Not Implemented - not_implemented.html
 - 502 Bad Gateway - bad_gateway.html
- 4 Webサーバが再起動するまで数時間待機します。その後、Webサーバはエラードキュメントを使用して起動します。

外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給

このサーバ上で Web サイトをホスティングし、そのサイトのプライマリ（マスタ）ネームサーバとして機能するスタンドアロン DNS サーバがある場合は、コントロールパネルの DNS サーバが、セカンダリ（スレーブ）ネームサーバとして機能するように設定する必要があることもあります。

- 1 [DNS設定] に進みます。
- 2 [ツール] グループの [DNSサービスモードの切り替え] をクリックします。
- 3 [レコードの追加] をクリックし、プライマリ（マスタ）DNSサーバの IPアドレスを指定し [OK] をクリックします。

➤ **コントロールパネルの DNS サーバをあるゾーンのプライマリとして機能させるには、以下を実行します。**

- 1 [DNS設定] をクリックします。
- 2 [ツール] グループの [DNSサービスモードの切り替え] をクリックします。そのゾーンの元のリソースレコードが復元されます。

Web サイトの中に外部ネームサーバ権限を持つものがある場合、外部ネームサーバによって使用されるサイトごとのコントロールパネル DNS サービスをオフにします。

- 1 [DNS設定] をクリックします。
- 2 [ツール] グループの [DNSサービスの無効化] をクリックします。ゾーンのDNSサービスを無効にすると、画面が更新されるので、ネームサーバのリストだけが残ります。

注：リストにあるネームサーバのレコードは、システムに何の影響も与えません。ネームサーバのレコードは画面上に表示され、それらをクリックすると、外部権限を持つネームサーバ上にゾーンの設定が維持されていることを確認することができます。

➤ **権限のあるネームサーバ上に維持されているゾーンの設定を確認するには、以下を実行します。**

- 1 [DNS設定] をクリックします。

- 2 そのゾーンに対して権限のある適切なネームサーバをポイントするエントリをDNSレコードのリストに追加します。 [レコードの追加] をクリックしてネームサーバを指定し [OK] をクリックします。 テストしたいネームサーバごとにこれを繰り返します。
- 3 レコードがリスト内に表示されます。
- 4 作成したレコードをクリックします。 Pleskは、リモートネームサーバからゾーンファイルを検索し、リソースレコードをチェックして、ドメインのリソースが正しく解決されるようにします。
- 5 結果が解釈され、画面上に表示されます。

パスワード保護による Web サイトのリソースへのアクセス制限

許可されたユーザにのみ表示されるディレクトリをサイトに作成する場合、これらのディレクトリへのアクセスをパスワード保護で制限します。

このセクションの内容:

リソースの保護.....	63
認証ユーザの追加および削除.....	64
リソースの非保護.....	65

リソースの保護

サイト内のディレクトリをパスワード保護し、許可されたユーザを指定するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 2 [新しいディレクトリの追加] をクリックします。
- 3 パスワード保護の必要なディレクトリのパスを指定します。

これは例えば `/private` のように、サイト内に存在するディレクトリになります。保護の必要なディレクトリが作成されていない場合、パスとディレクトリ名を指定すると、自動的に作成されます。

- 4 パスワードで保護されたディレクトリの現在または今後の配置先（別名ドキュメントroot）を指定します。

例えば、以下のようになります。

- `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [非 SSL] チェックボックスを選択します。
- `httpdocs/private` ディレクトリを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスに「`/private`」と入力し [SSL] チェックボックスを選択します。
- `cgi-bin` ディレクトリに保存された CGI スクリプトを保護する場合、[ディレクトリ名] ボックスの「/」をそのままにして [cgi-bin] チェックボックスを選択します。スラッシュ記号の後に空白は入っていないか確認してください。空白が入っている場合、空白を含む名前保護付きディレクトリが作成されます。

- 5 [ヘッダーテキスト] ボックスに、リソースの詳細または管理者の顧客が保護付き領域を訪問したときに表示されるウェルカムメッセージを入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

指定したディレクトリは保護されます。

- 7 許可されたユーザを追加するには、[新規のユーザを追加] をクリックします。
- 8 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。

パスワードには 5~14 個の記号を使用します。

- 9 [OK] をクリックします。
- 10 この保護されたリソースに対して、許可されたユーザを追加するには、ステップ7と8を繰り返します。

認証ユーザの追加および削除

保護されたディレクトリに認証ユーザを追加するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 2 必要なディレクトリ名をクリックします。
- 3 [新規ユーザの追加] アイコンをクリックします。
- 4 保護された領域へのアクセスに使用するログイン名とパスワードを指定します。
パスワードには 5~14 個の記号を使用します。
- 5 [OK] をクリックします。

保護されたディレクトリに許可されたユーザのパスワードを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 2 必要なディレクトリ名をクリックします。
許可されたユーザのリストが開きます。
- 3 ユーザ名をクリックします。
- 4 新しいパスワードを指定し、確認のために再入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

ユーザが保護されたディレクトリにアクセスするための権限を無効にするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。
- 2 必要なディレクトリ名をクリックします。
許可されたユーザのリストが開きます。
- 3 ユーザ名に対応するチェックボックスを選択します。
- 4 **×** [選択対象を削除] をクリックします。
- 5 操作を確認して [OK] をクリックします。

リソースの非保護

パスワード保護を削除し、リソースを一般ユーザが利用できるようにするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ホスティング] グループの [ディレクトリ] アイコンをクリックします。

パスワードで保護されたディレクトリのリストが開きます。

- 2 保護を削除するディレクトリ名に対応するチェックボックスを選択します。

- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。

保護が削除され、ディレクトリの内容は無制限に一般に公開されます。

サブドメインを含むサイト構造の編成

サブドメインは以下の作業を可能にする、補足的なドメイン名です。

- Web サイトの構造の論理的な編成
- 同じサーバ上の追加 Web サイトまたは Web サイトの一部をホストし、追加ドメイン名の登録に要する支払いを節減できます。

サブドメインを使用した例を以下に示します。

Web サイト `your-product.com` を、ソフトウェア製品の販売促進専用のサイトに設定しているとします。ユーザーズガイド、チュートリアル、よくある質問のリストを公開する場合、管理者のユーザがドメイン名 `userdocs.your-product.com` に直接アクセスしてオンラインドキュメントにアクセスできるように、サブドメイン「userdocs」を編成することができます。

このセクションの内容:

サブドメインの設定	66
サブドメインの削除	67

サブドメインの設定

サブドメインを設定するには、以下を実行してください。

- 1 ホームページで **[サブドメイン]** アイコンをクリックします。
- 2 **[新規サブドメインの追加]** アイコンをクリックします。
- 3 任意のサブドメイン名を入力します。

サイトのトピック、組織の部署、またはその他の文字、数字、ハイフンの組み合わせなどを入力できます（最長 63 文字）。サブドメイン名の先頭文字はアルファベット文字です。サブドメイン名は大文字と小文字を区別します。

- 4 このサブドメインが管理者が独自に管理している管理者用の Web サイトを部分的に保有している場合、**[親ドメインの FTP ユーザアカウントを利用する]** オプションを選択したままにしておきます。このサブドメインが、別の人物に属する、または別の人物により管理される別の Web サイトを保持している場合、**[このサブドメイン用に異なるユーザアカウントを作成する]** オプションを選択し、FTP を通じて Web スペースにアクセスし、Web サイトのコンテンツを公開する場合に使用するログイン名とパスワードを指定します。
- 5 このサブドメインがセキュアなトランザクションを要求する場合、**[SSL 対応]** チェックボックスを選択します。

これにより、親ドメインの下でインストールされた SSL 証明書が、暗号化トランザクションに使用されます。デフォルトでは、ユーザがサイトを公開する場合、`httpsdocs` ディレクトリへのセキュアな接続を経由してアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツおよびプレーン HTTP を経由して `httpdocs` ディレクトリにアクセスできるようにしなければならない Web コンテンツをアップロードする必要があります。ご参考までに、全てのコンテンツを単一の場所（`httpdocs` ディレクトリ）から公開するように選択することもできます。それには、**[SSL コンテンツおよび非 SSL コンテンツを格納する為の単一のディレクトリの使用]** オプションを選択してください。

- 6 Web サイトを作成する際に使用するプログラミング言語を指定します。これを指定しない場合、Web サイトが正しく機能しない場合があります。例えば、Web サイトが主に ASP で作成され、PHP で作成されたアプリケーション（アプリケーションヴォルトのアプリケーションなど）を使用している場合、**[ASP 対応]** チェックボックスと **[PHP 対応]** チェックボックスを選択します。
- 7 このサブドメイン内の Web コンテンツが使用できるディスク容量を制限する場合、**[ハードディスククォータ]** ボックスに必要な値をメガバイトで入力します。

指定された制限を超えた場合、Web スペースにファイルを追加できなくなり、既存のファイルの編集にファイルが破損する場合があります。

- 8 **[OK]** をクリックして設定を完了します。

新しいサブドメインに関する情報がドメイン名システム (DNS) 内に伝わり、インターネットユーザが利用できるようになるまで、最大 48 時間を要します。

サブドメインの Web スペースに Web コンテンツを公開するには、[サイトの公開] (30 ページ) のセクション内の手順に従って下さい。

サブドメインの削除

➤ サブドメインとその Web コンテンツを削除するには、以下の操作を実行し
ず。

- 1 ホームページで [サブドメイン] をクリックします。
- 2 削除したいサブドメイン名に対応するチェックボックスを選択します。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリ
ックします。

サブドメインのコンフィグレーションとその Web コンテンツがサーバから削除さ
れます。

サーバへの anonymous FTP アクセス の設定

専用の IP アドレス上のサイトをホストしている場合、他のユーザが FTP を使用して匿名でファイルをダウンロードまたはアップロードできるディレクトリを、サイト内に設定できます。 anonymous FTP が有効になると、ユーザは「anonymous」ログイン名と任意のパスワードを使用して <ftp://ftp.your-domain.com> にログインできるようになります。

anonymous FTP アクセスを許可するには、以下を実行してください。

- 1 [ホスティング] グループの [Anonymous FTP] アイコンをクリックします。
- 2 anonymous FTP サービスを有効にするには、[スイッチオン] をクリックします。
- 3 ユーザが FTP サイトにログインしたときに表示されるウェルカムメッセージを設定するには、[ログインメッセージを表示する] チェックボックスを選択し、入力フィールドに任意にメッセージテキストを入力します。

全ての FTP クライアントがウェルカムメッセージを表示するとは限りません。

- 4 ビジターに /incoming ディレクトリへのファイルのアップロードを許可するには、[/incoming ディレクトリへのアップロードを許可する] チェックボックスを選択します。
- 5 ユーザに /incoming ディレクトリへのサブディレクトリの作成を許可するには、[/incoming ディレクトリへのディレクトリの作成を許可する] チェックボックスを選択します。
- 6 /incoming ディレクトリからのファイルのダウンロードを許可するには、[incoming ディレクトリ内からのダウンロードを許可する] チェックボックスを選択します。
- 7 アップロードされたファイルが使用できるディスク容量を制限するには、[incoming ディレクトリのディスク容量を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスのチェックを外し、容量をキロバイトで指定します。

これがハードクォータです。この制限に達したとき、ユーザはディレクトリにファイルを追加できなくなります。

- 8 anonymous FTP サーバへの同時接続数を制限するには、[同時接続の数を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスのチェックを外し、許可される接続数を指定します。

- 9 anonymous FTP接続の帯域幅を制限するには、[このバーチャルFTPドメインのダウンロード帯域幅を制限する] オプションに対応する [無制限] チェックボックスのチェックを外し、最大帯域幅を1秒当たりのキロバイト数で入力します。
- 10 [OK] をクリックします。

anonymous FTP サーバの設定を変更する、または anonymous FTP サーバを無効にするには、以下を実行してください。

- 1 ホームページから必要なドメイン名をクリックします。
- 2 [ホスティング] グループの [Anonymous FTP] アイコンをクリックします。
- 3 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックするか、[ツール] グループの [スイッチオフ] アイコンをクリックして anonymous FTP サービスを無効にします。

サイトの追加ドメイン名の設定(ドメインエイリアス)

ドメイン名レジストラに、サーバでホストしている同一の Web サイトを示す複数のドメイン名を登録している場合、この章の記述どおりにドメインエイリアスを設定する必要があります。

このセクションの内容:

ドメインエイリアスの設定	70
ドメインエイリアスのプロパティの修正	71
ドメインエイリアスの削除	71

ドメインエイリアスの設定

- ドメインエイリアスを設定するには、以下の操作を実行します。
- 1 [ドメインエイリアス]に進み、[ドメインエイリアスの追加]をクリックします。
 - 2 希望するドメインエイリアス名を入力します(例 : alias.com)。
ドメインエイリアスには、文字、数字、ハイフンを使用できます。ドメインエイリアスのドット間の各部分には、63個以下の記号を使用します。
 - 3 ドメインエイリアスでプライマリドメインと同じDNSゾーンリソースレコードを使用したい場合は、[DNSゾーンをプライマリドメインと同期化]チェックボックスを選択します。この設定により、今後プライマリドメインゾーンのリソースレコードに変更があった場合、それがこのドメインエイリアスのDNSゾーンに適用されます。
 - 4 ドメインエイリアスの下のメールアドレスで送信されたメールを、オリジナルドメイン名の下のメールアドレスに転送する場合、[メール]チェックボックスを選択します。
例 : mail@yourdomain.com というメールアドレスを保有し、ドメイン名に alias.com などのエイリアスを設定しているとします。この場合、mail@alias.com に送信された、メールボックス mail@yourdomain.com へのメールを受け取るには、[メール]チェックボックスを選択します。
 - 5 [Web] チェックボックスを選択します。このチェックボックスを選択しない場合、ブラウザにドメインエイリアスを入力して管理者のサイトを訪問したユーザに、Webコンテンツを表示しません。
 - 6 サイトにJavaアプリケーションをインストールしていて、ドメインエイリアスからアクセスできるようにしたい場合は、[Java Webアプリケーション]チェックボックスを選択します。
 - 7 [OK] をクリックします。

ドメインエイリアスのプロパティの修正

➤ エイリアスのプロパティを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 [ドメインエイリアス]に進んで処理したいエイリアス名をクリックします。
- 2 プロパティを変更して [OK] をクリックします。

➤ ドメインエイリアスの DNS ゾーンのリソースレコードを変更するには、以下の操作を実行します。

- 1 [ドメインエイリアス]に進んで処理したいエイリアス名をクリックします。
- 2 [DNS設定] をクリックします。
- 3 必要に応じてリソースレコードを追加、編集、削除します。
 - ゾーンにリソースレコードを追加するには、[新規レコードの追加] をクリックします。必要な値を指定し、[OK] をクリックしてゾーンに値を書き込みます。
 - リソースレコードを変更するには、[ホスト] の列で必要なレコードに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - レコードを削除するには、削除するレコードに対応するチェックボックスを選択し **×** [選択対象を削除] をクリックします。

DNS リソースレコードの変更やその他の DNS 関連のオプションについて、詳細は「ドメインの DNS ゾーンのカスタマイズ」(54 ページ) および「外部ドメインネームサーバを持つサイトの供給」(61 ページ) セクションをご参照ください。

ドメインエイリアスの削除

➤ ドメインからエイリアスを削除するには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで [ドメインエイリアス] をクリックします。
- 2 削除したいドメインエイリアスに対応するチェックボックスを選びます。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

Web サーバでの個人用 Web ページのホスティング

専用のドメイン名を必要としない個人の個人用 Web ページは、管理者 Web サーバでホストできます。このサービスは主に、学生やスタッフの非営利的なパーソナルページをホストする教育機関で使用されています。

そういったページの Web アドレスは通常<http://your-domain.com/~username>となります。

➤ **サーバで個人用 Web ページを追加するには、別の Web スペースを割り当て、公開用の FTP アカウントを設定します。**

- 1 ホームページで [Webユーザ] をクリックします。
- 2 [プリファレンス] をクリックします。
- 3 個人 Web ページに埋め込まれたスクリプトが実行できるようにする場合は、[Webユーザーへのスクリプトの使用の許可] チェックボックスを選択します。

- 4 [OK] をクリックします。

ステップ 3 で定義した設定は、管理者の Web サーバでホストするすべての個人用 Web ページに共有です。従って、次に個人用 Web ページの Web スペースを設定する場合は、ステップ 2 から 4 を実行する必要はありません。

- 5 [新しい Web ユーザを追加] をクリックします。
- 6 FTP を使用して Web スペースにアクセスし、Web ページの公開に使用するユーザ名とパスワードを指定します。

ユーザ名には小文字の英数字、ハイフン、アンダースコア記号のみ使用できます。ユーザ名の先頭文字はアルファベット文字です。空白を含めることはできません。パスワードにはクォーテーションマーク、空白、ユーザのログイン名を使用できません。長さは 5~14 文字とします。

- 7 Web ページでサポートされるプログラミング言語を指定します。

例えば、Web ページが PHP で作成されている場合、[PHP 対応] チェックボックスを選択します。

- 8 Web ページコンテンツが占有できるディスク容量を制限するには、[無制限] チェックボックスの選択を外して [ハードディスククォータ] ボックスに希望の値をメガバイトで入力します。

指定した制限値を超えると、Web ページオーナーは Web スペースにファイルを追加することができなくなります。

- 9 [OK] をクリックします。

これで、FTP アカウントの信用情報がユーザに伝えられ、ユーザが自分の Web ページを公開できるようになります。

このセクションの内容:

Web ページオーナーの FTP パスワードの変更.....	73
Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加.....	73
Web ページオーナーのアカウントの削除	74

Web ページオーナーの FTP パスワードの変更

- Web ページオーナーの FTP パスワードを変更するには、以下の操作を実行します。
- 1 [Webユーザ] > [ユーザ名] に進みます。
- 2 [新規パスワード] ボックスおよび [パスワードの確認] ボックスで新しいパスワードの入力と確認を行います。
- 3 [OK] をクリックします。

Web ページオーナーへのディスク容量の割り当ての増加

- Web ページオーナーへのディスク容量割り当てを増やすには、以下を実行してください。
- 1 [Webユーザ] > [ユーザ名] に進みます。
- 2 [ハードディスククォータ] ボックスに、ディスク容量をメガバイトで入力します。
- 3 [OK] をクリックします。

Web ページオーナーのアカウントの削除

- Web ページオーナーのアカウントをそのWeb ページとともに削除するには、以下の操作を実行します。
- 1 ホームページで [Webユーザ] をクリックします。
- 2 削除するユーザ名の右側にあるチェックボックスを選択します。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

第 5 章

メールサービスの使用

1つのメールアカウントで様々なメールサービスを利用できます。例えば、標準的なメールボックスとしてメールを受取ったり、多数の宛先へ転送したり、送信者へ自動的に応答するようなメールアドレスを持つことができます。

この章の内容:

メールボックスの作成	76
メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定	78
Web ブラウザからのメールへのアクセス	80
スパムからのメールボックスの保護	81
ウイルスからのメールボックスの保護	87
メールボックスの中断と中断解除	89
メールボックスの削除	90
アカウントのメールボックスフォワーダへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化	90
単一メールアドレスへのメール転送の設定	91
複数メールアドレスへのメール転送の設定	93
メールフォワーダの削除	95
自動応答の設定	96
自動応答の無効化	98
存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス	99
複数のメールアカウントに対する変更の一括導入	100
メーリングリストの保守	101

メールボックスの作成

メールアドレスをyourname@your-domain.comなどの特定のサイトに関連付ける場合、メールボックスを作成する必要があります。このためには、以下を実行します。

- 1 [メール]に進んで[新しいメールアカウントを追加]をクリックします。
- 2 ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
- 3 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 4 チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認してください。
- 5 [OK] をクリックします。

これでプロバイダのサーバにメールボックスが作成されました。新しいメールボックスを通じてメールを送受信できるようにお気に入りのメールプログラムを設定できます。他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。

➤ **他のユーザのメールボックスを作成するには、以下を実行します。**

- 1 [メール]に進んで[新しいメールアカウントを追加]をクリックします。
- 2 ドメイン名が @ 記号の右側に表示され、あとはメールボックスに必要な名前を指定するだけです。
ドットで区切ったユーザの名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。
- 3 メールボックスのオーナーがメールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。
- 4 チェックマークが [メールボックス] チェックボックスに表示されることを確認してください。
- 5 必要に応じて、このメールボックスおよび自動応答の添付ファイルで使用できるディスク容量を制限します。この場合、[メールボックスクォータ]で[サイズ入力]オプションを選択し、指定する値をキロバイトで入力します。
- 6 メールボックスオーナーがメールボックス管理パネルを使用して自分のメールボックスを管理するのを許可する場合は、[コントロールパネルアクセス]チェックボックスを選択し、ユーザのコントロールパネルの言語を指定します。

- 7 [OK] をクリックします。
- 8 メールボックスオーナーがスパムフィルタとアンチウイルスを設定し使用するのを許可する場合は、[パーミッション] をクリックしてそれぞれのチェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

これでメールボックスが作成され、Plesk に専用のメール管理パネルが設定されました。管理パネルに入力する場合、メールボックスオーナーは URL <https://your-domain.com:8443> を閲覧し、[ログイン] ボックスにメールアドレスを入力し、[パスワード] ボックスにメールボックスのパスワードを入力してから、[ログイン] をクリックします。

メールボックスからメールを取得するためのメールプログラムの設定

➤ *Microsoft Outlook Express* を設定するには、以下を実行します。

- 1 Microsoft Outlook Expressを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント]に進みます。
- 3 [メール]タブをクリックして、メールアカウントのリストを開きます。
- 4 [追加>] ボタンをクリックし、[メール...]項目を選択します。
- 5 送信する全てのメッセージに表示される名前を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 6 Pleskで作成したメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、[次へ>] をクリックします。
- 9 [アカウント名] ボックスにメールアドレスを入力します（例：your.name@your-domain.com）。
- 10 パスワードを入力します。これはPleskでメールボックスを作成する際に指定したパスワードです。
- 11 メールプログラムがメールサーバに接続し新規メールをチェックするたびに、パスワードの入力が要求されないようにする場合は、[パスワードを記憶する] ボックスにチェックを付け、[次へ>] をクリックします。
- 12 メールプログラムの設定を終了する場合は、[完了]をクリックします。

➤ *Mozilla Thunderbird* を設定するには、以下を実行します。

- 1 Mozilla Thunderbirdを開きます。
- 2 [ツール] > [アカウント設定...]に進みます。
- 3 [アカウントを追加] をクリックします。アカウントウィザードが開きます。
- 4 [メールアカウント] オプションを選択したまま、[次へ>] をクリックします。
- 5 送信するすべてのメッセージに表示される名前を入力します。
- 6 Pleskで作成したメールアドレスを入力します。

例えば、your.name@your-domain.comのように入力し、[次へ>] をクリックします。

- 7 受信メールサーバのプロトコルを選択します。
- 8 メールドメイン名を受信および発信メールサーバとして指定し（例：mail.your-domain.com）、[次へ>] をクリックします。
- 9 受信ユーザ名ボックスで、自分の完全なメールアドレス（例：your.name@your-domain.com）を指定し、[次へ>] をクリックします。
- 10 このアカウントを参照する際の名前（例：Work Account）を入力し、[次へ>] をクリックします。
- 11 入力した情報が正しいことを確認し、[完了] をクリックします。
- 12 [OK] をクリックして、アカウント設定ウィザードを閉じます。

Web ブラウザからのメールへのアクセス

自宅やオフィスのコンピュータから離れている場合でも、自分のメールを読み出し、新しいメッセージを作成することができます。この場合、まずコントロールパネルに統合されている Horde Web メールインターフェースへのアクセスを許可する必要があります。これで、インターネット接続および Web ブラウザがインストールされているコンピュータや WAP が有効な携帯電話や携帯用コンピュータ (PDA) があればメールを使って作業をすることができます。

➤ **Web メールインターフェースへのアクセスを可能にするには、以下を実行してください。**

- 1 ホームページで [メール] アイコンをクリックします。
- 2 [プリファレンス] をクリックします。
- 3 [Webメール] チェックボックスを選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

注：ドメインに対する Web メールの有効化と無効化には、DNS ゾーンでの変更が伴うため、実際には、DNS 登録メカニズムの速度により Web メールを有効化および無効化する場合に一定の遅延が発生します。

➤ **Web メールからメールボックスにアクセスするには、以下を実行してください。**

- 1 Webブラウザ（携帯用デバイスで作業しているのであればWAPブラウザ）を開いて以下のURLを入力します。
<http://webmail.your-domain.com>を入力します。このyour-domain.comには使用しているドメインの名称を入力します。ENTERを押します。Webメールログイン画面が開きます。
- 2 メールボックスを作成する際に指定したユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

スパムからのメールボックスの保護

不要な通信からメールボックスを保護するには、インターネットフォーラムにメールアドレスを発行せずに、SpamAssassin ソフトウェア内のサーバ側スパムフィルタを有効にします。

メールアドレスを発行する必要がある場合、プライマリメールアドレスにディスポーザブルメールアドレス、すなわちメールエイリアスを作成し、これを代わりに発行します。メールエイリアスに送信されたメッセージはすべて、メールボックスに到着します。スパムが到着し始めたら、そのエイリアスを削除し別のエイリアスを作成します。別のドメインまたは別のメールサーバにメールボックスを保有している場合、ディスポーザブルメールフォワーダを設定できます。

スパムメールを受け取ったら読まずに一度に削除することをお勧めします。読んだとしても、返信したり「配信停止にはここをクリックしてください」といった URL をクリックしたりしないでください。返信したり URL をクリックしたりするとメールアドレスがスパマーの知るところとなり、更に多くのスパムを受け取ることになってしまいます。

このセクションの内容:

メールボックスの補足的ディスポーザブルメールアドレス（メールエイリアス）の設定.....	82
スパムフィルタの設定	82

メールボックスの補足的ディスプレイメールアドレス（メールエイリアス）の設定

➤ メールボックスにメールエイリアスを設定するには、以下を実行します。

- 1 [メール] > [メールアドレス]に進み、[新しいメールエイリアスを追加]をクリックします。
- 2 エイリアスに追加する名前を入力し、[OK]をクリックします。

追加したメールアドレス（メールエイリアス）宛てのメッセージは、メールボックスに到着します。現在使用しているメールエイリアスのリストはドメインのメールアカウント一覧を表示するページで👁️ [エイリアスの表示] をクリックすると表示されます。

➤ メールボックスからメールエイリアスを削除するには、以下を実行します。

- 1 [メール] > [メールアドレス]に進みます。
- 2 削除するエイリアスに対応するチェックボックスを選択し、✖️ [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

スパムフィルタの設定

削除できない、または削除する必要のないメールに宛てた不要な通信を受け取る場合、メールボックスにスパムフィルタを設定することを検討して下さい。このためには、以下を実行します。

- プロバイダが SpamAssassin スпамフィルタに対応している場合は、ホスティングアカウントでそれを有効にします。
- メールプログラムの操作を自宅とオフィスのどちらのコンピュータで行うかを選択して、スパムフィルタリングソフトウェアをインストールします。

このセクションの内容:

スパムフィルタの有効化.....	83
スパム検出の精度の改善.....	85
スパムフィルタのデータベースの消去	86
スパムフィルタの無効化.....	86

スパムフィルタの有効化

メールボックスのスパムフィルタを有効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 4 必要に応じて以下の設定を行います。

- **スパムとしてみなす数** この設定はスパムフィルタの感度を調整します。SpamAssassin は、各メッセージのコンテンツおよび件名行に対して複数の異なるテストを実行します。その結果、各メッセージに複数のポイントが記録されます。ポイントが高くなるほど、メッセージがスパムである可能性が高くなります。例えば、件名行および本文にテキスト文字列「BUY VIAGRA AT LOW PRICE!!!」を含むメッセージの特定は 8.3 ポイントになります。デフォルトでは、スコアが 7 ポイント以上のメッセージが全てスパムと分類されるようにフィルタ感度が設定されます。

現在の設定で多くのスパムメッセージを受け取る場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を 6 などに下げてみてください。

スパムフィルタでジャンクとみなされたためにメールを受信できない場合、[スパムとしてみなす数] ボックスの値を高くし、フィルタ感度を下げてみてください。

注： スпамフィルタの精度をさらに高めるために、受信するメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングできます（次のセクションの、「スパム検出の精度を高めるための指示」を参照してください）。

- **スパムメッセージの処理方法。** スпамフィルタの精度を確実なものにする場合、スパムと認識された全ての受信メッセージを自動的に削除するようにフィルタを設定できます。この場合、[削除] オプションを選択します。ローカルコンピュータのソフトウェアでメールをフィルタリングする場合は、[スパムとしてみなす数] オプションを選択し、スパムとして認識されたメッセージをスパムフィルタでマークする方法を指定します。
「X-Spam-Flag: YES」および「X-Spam-Status: Yes」ヘッダーがデフォルトではメッセージソースに付加され、またスパムフィルタにより件名行の先頭に特定のテキスト文字列が追加されます。希望の記号や文字の組み合わせをメッセージの件名に含めるには、[スパムと認識された各メッセージの件名の最初に以下のテキストを追加] ボックスに入力してください。スパムフィルタにメッセージの件名を変更させたくない場合は、このボックスを空白のままにしてください。件名にメッセージのスコアを含めたい場合は、このボックスに `_SCORE_` と入力してください。
- 5 特定のドメインや送信者からのメールを受信したくない場合は、[ブラックリスト] タブをクリックしてスパムフィルタのブラックリストにそれぞれの項目を追加します。





- ブラックリストに項目を追加するには、**【アドレスを追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@spammers.net](#), [user?@spammers.net](#), [*@spammers.net](#)) 。 [*@spammers.net](#) を指定すると [spammers.net](#) というドメインからの全てのメールをブロックします。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックしてください。
 - ブラックリストからエントリを削除するには、**【ブラックリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 6 特定の送信者からのメールを確実に受信するには、**【ホワイトリスト】** タブをクリックしてスパムフィルタのホワイトリストにそのメールアドレスまたは完全なドメイン名を追加します。
- ホワイトリストにエントリを追加するには、**【アドレスの追加】** をクリックします。ファイルにエントリのリストがある場合は、それを**【参照】** で指定し**【OK】** をクリックします。もしくは、**【リストから】** オプションを選択し**【メールアドレス】** ボックスにメールアドレスを入力します。その際、アドレスごとに改行するか、もしくはコンマやコロンや空白スペースでアドレスを区切って下さい。アスタリスク (*) は任意の組み合わせ文字を意味し、疑問符 (?) は任意の一文字を意味します 例えば、以下のようになります。 [address@mycompany.net](#), [user?@mycompany.net](#), [*@mycompany.net](#)) 。 [*@mycompany.net](#) を指定すると [mycompany.net](#) というドメインのメールアドレスが全てホワイトリストに追加されます。追加したエントリを保存するには、**【OK】** をクリックして追加を確認して、もう一度**【OK】** をクリックします。
 - ホワイトリストからエントリを削除するには、**【ホワイトリスト】** タブからエントリを選択し**【選択対象を削除】** をクリックします。削除を確認して**【OK】** をクリックします。
- 7 スпамフィルタの設定が終了したら、**【スパムフィルタリングをスイッチオンする】** アイコンをクリックして**【OK】** をクリックします。

スパム検出の精度の改善

スパムの精度は、メールボックス内に保存されたメールメッセージでスパムフィルタをトレーニングすることで改善できます。

スパム検出の精度を改善するには、以下を実行します。

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 4 [トレーニング] タブをクリックします。

メールボックス内のすべてのメールメッセージが、画面に表示されます。各メッセージの左の列にアイコンが表示されます。このアイコンから、メッセージが  スパムと認識されるか、 非スパムと認識されるか、 認識不可であるかが分かります。メッセージでスパムフィルタのトレーニングを実施し、結果をスパムフィルタのデータベースに記録している場合、右側の列にアイコン  が表示されます。

- 5 スパムフィルタをトレーニングします。

通常は、件名行と送信者名を調べるとメッセージがスパムかどうかわかります。件名行と送信者名から手がかりが得られない場合、E-mail プログラムまたは Web メールインターフェースを使用してメッセージ内を調べてみてください。

- メッセージにスパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM です」をクリックします。
- メッセージに非スパムとマークする場合は、対応するチェックボックスを選択し、「SPAM ではありません」をクリックします。
- スパムフィルタのデータベースから特定のメッセージに関する情報を削除するには、対応するチェックボックスを選択し、「そのままにしておく」をクリックします。

- 6 トレーニングが終了したら、メールプログラムまたは Web メールインターフェースを使用して、メールボックスからスパムメールを削除できます。

スパムフィルタのデータベースの消去

間違ってスパムフィルタに大量のスパムメールを非スパムと学習させた場合、またはその逆の場合、スパムフィルタの学習結果が間違ったものになる可能性があります。スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

スパムフィルタのデータベースを消去するには、以下を実行します。

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 4 [トレーニング] タブをクリックします。
- 5 [クリア] ボタンをクリックします。

スパムフィルタの無効化

メールボックスのスパムフィルタを無効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [スパムフィルタ] アイコンをクリックします。
- 4 [スパムフィルタリングを無効にする] アイコンをクリックし、[OK] をクリックします。

ウイルスからのメールボックスの保護

システムをウイルスから防御する場合、疑わしいメールの添付ファイルを開かず、サーバ側のアンチウイルス保護サービスがホスティング会社から提供されている場合これを有効にし、ファイアウォールとアンチウイルスソフトウェアがパーソナルコンピュータにインストールされていることを確認します。そしてオペレーティングシステムを常に最新の状態に維持し、適宜、セキュリティホットフィックスおよびパッチをインストールします。

このセクションの内容:

アンチウイルス保護の有効化.....	87
アンチウイルス保護の無効化.....	88

アンチウイルス保護の有効化

➤ メールボックスのアンチウイルス保護を有効にするには、以下を実行します。

- 1 ホームページで [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 4 使用するメールスキャンモードを選択します。受信メール、発信メール、または送受信メールに対してスキャンを有効にできます。

注：サーバで Kaspersky アンチウイルスを使用している場合、スキャン設定の調整に [スキャン設定] アイコンを使用できます。スキャン設定に関する情報を表示するには、ナビゲーションペインの [ヘルプ] ショートカットをクリックしてください。

- 5 [OK] をクリックします。

アンチウイルス保護の無効化

- メールボックスのアンチウイルス保護を無効にするには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [メール] アイコンをクリックします。
- 2 必要なメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [アンチウイルス] アイコンをクリックします。
- 4 [ウイルスをスキャンしない] オプションを選択して [OK] をクリックします。

メールボックスの中断と中断解除

- **メールボックスのメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールボックス] に進みます。
 - 2 [メールボックス] チェックボックスを解除します。
 - 3 [OK] をクリックします。

- **メールボックスのメールサービスを再開するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールボックス] に進みます。
 - 2 [メールボックス] チェックボックスを選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

- **ドメイン内の全てのメールボックスについてメールサービスを一時的に中断するには、以下を実行します。**
 - 1 ホームページで [メール] をクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [スイッチオフ] をクリックします。

- **ドメイン内の全てのメールボックスについてメールサービスを再開するには、以下を実行します。**
 - 1 ホームページで [メール] をクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [スイッチオン] をクリックします。

メールボックスの削除

- メールボックスを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [メール] をクリックします。
 - 2 削除するメールボックスの対応するチェックボックスを選択します。
 - 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

アカウントのメールボックスフォワードへの変更を決定した場合のメールボックスサービスの無効化

既存のメールアカウントをメールフォワードまたはメーリングリストとして使用する予定がある場合、メールボックスサービスを無効にすることをお奨めします。メールボックスですべての受信メッセージを保存し、転送後も自動的に削除されないようにします。従って、アカウントで「メールボックス + メールフォワード」の設定を選択する場合は、必ず、時々メールボックスをクリーンアップしてください。

- メールボックスの全てのメッセージを破棄するアカウントのメールボックスサービスを無効にするには、以下を実行します。
- 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールボックス] に進みます。
 - 2 [メールボックス] チェックボックスのチェックを外します。
 - 3 [OK] をクリックします。

単一メールアドレスへのメール転送の設定

➤ **メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。**

- 1 [メール]に進んで[新しいメールアカウントを追加]をクリックします。
- 2 [メールアカウント名]の横のメールフォワーダに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 3 [メールボックス] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。
- 4 [ツール] グループの [転送] をクリックします。
- 5 [転送] チェックボックスを選択します。
- 6 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

➤ **メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールをスパムフィルタに通し、別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。**

- 1 [メール]に進んで[新しいメールアカウントを追加]をクリックします。
- 2 [メールアカウント名]の横のフォワーダのメールアドレスに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 3 [メールボックス] チェックボックスが選択されていることを確認してください。

メールボックスを選択していない場合、スパムフィルタリングを適用できません。

- 4 メールボックスへのアクセスに使用するパスワードを指定します。メールボックスの中身は適宜整理してください。 [OK] をクリックします。

- 5 「スパムフィルタのセットアップ」 (82 ページ) セクションの記載通りにスパムフィルタを設定してください。
- 6 [ツール] グループの [転送] をクリックします。
- 7 [転送] チェックボックスを選択します。
- 8 メールを転送する宛先メールアドレスを入力します。
- 9 [OK] をクリックします。

このセクションの内容:

メールフォワーダの中断と中断解除92

メールフォワーダの中断と中断解除

- **メールフォワーダを中断するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [リダイレクト] に進みます。
 - 2 [転送] チェックボックスを解除します。
 - 3 [OK] をクリックします。

- **メールフォワーダの中断を解除するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [リダイレクト] に進みます。
 - 2 [転送] チェックボックスを選択します。
 - 3 [OK] をクリックします。

複数メールアドレスへのメール転送の設定

➤ メールを受け付けるメールアドレスを設定し、このメールを複数の別のメールアドレスに転送するには、以下を実行します。

- 1 [メール]に進んで[新しいメールアカウントを追加]をクリックします。
- 2 [メールアカウント名]の横のメールフォワーダに該当する名前を指定します。

ドメイン名が @ 記号の右側に表示されるため、あとは名前を入力するだけです。ドットで区切った名字と名前、部署名、その他のラテン記号のテキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。

- 3 [メールボックス] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。
- 4 [メールグループ] に進んで [新しいメンバを追加] をクリックします。
複数のメールアドレスへのメール転送を有効にする前に、1つ以上のメールアドレスを追加する必要があります。
- 5 [メールアドレス] 入力フィールドに必要な外部メールアドレスを入力するか、チェックボックスでリストから1つまたは複数のメールアカウントを選択する、あるいは両方の作業を行います。
- 6 [OK] をクリックして、[有効化] をクリックします。

このセクションの内容:

受信者アドレスの追加と削除.....	94
複数メールアドレスへのメール転送の無効化	95

受信者アドレスの追加と削除

- 転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、外部メールアドレスを追加するには、以下を実行してください。
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールグループ] に進み、[新しいメンバーを追加] をクリックします。
 - 2 [メールアドレス] 入力フィールドに、該当する外部メールアドレスを入力します。
 - 3 [OK] をクリックします。

 - 転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、外部メールアドレスを削除するには、以下を実行してください。
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールグループ] に進みます。
 - 2 リストから削除したいメールアカウントのチェックボックスを選択します。
 - 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

 - 転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストに、サーバに登録されたメールアドレスを追加するには、以下を実行します。
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [グループ] に進みます。
 - 2 [利用可能なメールグループ] リストで、該当する複数のメールフォワーダを選択します。
 - 3 [追加 >>] をクリックします。
 - 4 [OK] をクリックします。
- サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス追加の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストに追加することができます。
- 転送されたメール通信を受け取るメールアカウントのリストから、サーバに登録されたメールアドレスを削除するには、以下を実行してください。
 - 1 [メール] > [メールアドレス] > [グループ] に進みます。
 - 2 [次のメールグループのメンバー] リストで、該当する複数のメールフォワーダを選択します。
 - 3 [<<削除] をクリックします。
 - 4 [OK] をクリックします。

サーバに登録されたメールアドレスも、外部メールアドレス削除の手順(上記をご参照ください)に従って更新リストから削除することができます。

複数メールアドレスへのメール転送の無効化

- 複数メールアドレスへのメール転送を無効にするには以下を実行します。
- 1 [メール] > [メールアドレス] > [メールグループ] に進みます。
- 2 [スイッチオフ] をクリックします。

メールフォワーダの削除


- メールフォワーダを削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [メール] をクリックします。
- 2 削除するメールフォワーダの対応するチェックボックスを選択します。
- 3 **×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

自動応答の設定

休暇に入る予定があり、しばらくの間メールをチェックできない場合、アドレスにメールを送信した送信者に対して、自動的に休暇通知が送信されるように設定しておくことができます。これは自動応答とも呼ばれる、自動応答機能を使用して行います。休暇通知以外に、組織では自動応答を使用して、オーダーや技術サポートの受領と、これらの迅速な処理を顧客に通知することができます。自動応答には、プレーンテキストまたはHTML形式で事前に作成されたメッセージを含めること、また添付ファイルを含めることもできます。

➤ **メールボックスの自動応答を設定するには、以下を実行します。**

- 1 ホームページで [メール] アイコンをクリックします。
- 2 自動応答を設定するメールアドレスをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [自動応答] アイコンをクリックします。
- 4 自動応答にファイルを添付する予定がない場合は、手順5に進みます。自動応答にファイルを添付するには、以下を実行します。
 1. [ツール] グループの [ファイル添付] アイコンをクリックします。
 2. [参照] をクリックしてファイルを探し、選択した後 [ファイル送信] をクリックします。

ファイルが添付ファイル保存に追加され、このファイルを別の複数の自動応答に追加できるようになります。
 3. 終了したら  [上へ] をクリックし、次の手順に進みます。
- 5 [ツール] グループの [新しい自動応答を追加] アイコンをクリックします。
- 6 自動応答を設定します。
 1. [自動応答名] ボックスに、この自動応答の名前を入力します。

例えば、休暇通知などです。
 2. 不在の間、受信メールを別のメールアドレスに転送する場合、**[自動応答の後、オリジナルメッセージを指定されたメールアドレスに転送する]** ボックスにメールアドレスを指定します。
 3. 受信するメールメッセージへの応答に、この自動応答を送信する場合は、**[条件] グループ**で **[常に返信する]** オプションを選択した状態にします。メッセージテキストまたは件名行に特定の語句を含むメールメッセージにのみ自動的に応答する場合は、適切なオプションを選択し、入力ボックスに語句の組み合わせを入力します。

4. デフォルトでは受信メールの件名が自動応答で送信するメッセージの件名に挿入されます。カスタムの件名を使用するには、**[応答]** 件名入力ボックスにカスタム件名を入力します。
 5. こちらから送信されたメッセージが自動応答であると相手側が想定できないため、相手側が自動応答に対して返答する場合があります。このため、**[返信アドレス]** として自分のメールアドレスを指定する必要があります。
 6. 自動応答メッセージの形式（プレーンテキストまたはHTML）と、文字のエンコード方式（UTF-8を推奨）を指定します。HTML自動応答メッセージにHTMLタグを使用する場合、**[HTML]** オプションを選択します。
 7. **[テキスト付き返信]** フィールドにメッセージを入力します。
 8. 必要に応じて、ファイルを添付します。この場合、**[添付ファイルを追加]** ボタンをクリックし、以前に添付保存にアップロードしていたファイルに対応するチェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。添付ファイルを自動応答から削除するには、該当するチェックボックスを選択して **✕ [選択対象を削除]** をクリックします。
 9. 同じメールアドレスへの1日あたりの自動応答の数を制限するには、**[制限]** 内の各入力ボックスに上限数を入力します。
デフォルトでは同じメールアドレスに対する応答として 10 回/日の上限が設定されています。
 10. メールサーバの負荷を減らすために、自動応答が記憶する固有のアドレスの数を制限できます。それには、**[...件まで保存]** ボックスに上限数を入力します。
- 7 **[OK]** をクリックします。
 - 8 **[ツール]** グループの **[スイッチオン]** アイコンをクリックします。

自動応答の無効化

➤ **メールボックスの自動応答を無効にするには、以下を実行します。**

- 1 [メール] > [メールアドレス] > [自動応答] に進みます。
- 2 [スイッチオフ] をクリックします。

自動応答が無効になりました。自動応答の設定はコントロールパネルから削除されていないため、この自動応答を次に使用する必要がある場合、上記の手順を繰り返し、最後の手順で [スイッチオン] をクリックします。

➤ **不要になった自動応答設定を削除するには、以下を実行します。**

- 1 [メール] > [メールアドレス] > [自動応答] に進みます。
- 2 設定名に対応するチェックボックスを選択し、**✖** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

存在しないユーザ宛メールの処理に対するサイト単位のプリファレンス


誰かがドメインに存在しないメールアドレスに対してメールメッセージを送信した場合、デフォルトでは、メールサーバはメールを受信し、処理して、このような受信者がドメイン内に存在しないと認識した後、「this address no longer accepts mail（このアドレスはメールを受け取ることができません）」という通知をつけて送信者にメールを返します。この場合、次の選択が可能です。

- デフォルトの通知が適切でないと思われる場合は変更する。
- このようなメールをすべて指定したメールアドレスに転送する。
- このようなメールを受け取らず、送信者に通知せずに拒否する。

この設定により、多くの場合ランダムに生成されたユーザ名に送信される大量のスパムにより生じた、メールサーバの負荷を減らすことができます。ただし、スパマーの側からすれば、この設定によりメールサーバのスキャンで有効なメールアドレスを検出する時間を多少短縮できます。

- **存在しないユーザへのメールの処理に対するサイト単位の設定を行うには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [プリファレンス] に進みます。
 - 2 必要なオプションを選択し、必要に応じて情報を指定します。
 - 3 [OK] をクリックします。

複数のメールアドレスに対する変更の一括導入

- 複数のメールアドレスへの類似変更の同時処理を導入するには、以下を実行します。
- 1 [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 設定を変更したいメールアドレスに対応するチェックボックスを選択します。
- 3  [一括設定] をクリックします。
- 4 必要に応じて、設定を調整して下さい。
 - [スイッチオン] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを有効にします。
 - [スイッチオフ] を選択して、選択したメールアドレスの各オプションを無効にします。
 - 関連オプションを変更したくない場合は [変更しない] オプションを選択したままにします。
- 5 [OK] をクリックします。

メーリングリストの保守

顧客にオファーおよびプロモーションを配信する、ニュースレターを運営する、あるいはサイトの閲覧者に最新の更新について通知する場合、サイトにメーリングリストを設定し、ユーザをメーリングリストに登録するか、ユーザに登録を勧める必要があります。

メーリングリストは1度に多くのユーザへの宣伝ができるので便利です。メーリングリストには、情報やニュースレターを投稿する単一のメールアドレスの下にまとめられた、加入者のメールアドレスのリストが保存されています。メーリングリストは、オプションでサーバにインストールされた GNU Mailman ソフトウェアにより提供されません。

メーリングリストが使用できるかどうかを確認するには、プロバイダを確認するか、コントロールパネルでメーリングリストを探します。[ホーム] > [メール] に進み、[メーリングリスト] タブをクリックし、[新しいメーリングリストを追加] アイコンがカラー表示されているかどうかを確認します。

このセクションの内容:

メーリングリストの設定	102
メーリングリストの設定	103
ユーザの登録と登録解除	104
メーリングリストへの投稿	104
メーリングリストの削除	104

メーリングリストの設定

➤ **メーリングリストを設定するには、以下を実行してください。**

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 3 [ツール] グループの [スイッチオン] アイコンをクリックし、サーバのMailmanソフトウェアを起動します。
- 4 [ツール] グループの [新しいメーリングリストの追加] アイコンをクリックします。
- 5 メーリングリストに必要な名前を指定します。

部署名、メーリングリストのトピック、その他のラテン記号テキストなどを指定できます。名前は覚えられる長さにする必要があります。英数字、ダッシュ、ドット、アンダースコアの記号を使用できます。


- 6 ーリングリストの管理に使用するパスワードを指定します。
- 7 メーリングリスト管理者のメールアドレスを指定します。
- 8 [メーリングリスト作成を管理者に通知する] チェックボックスを選択したままにしておきます。

指定した管理者のメールアドレスでのメーリングリストの使用および維持に関する指示が表示されます。メッセージを記録用に保管しておいて下さい。

- 9 [OK] をクリックします。

メーリングリストの設定

メーリングリストは、デフォルト設定で操作できます。しかしながら、モデレーションの有効化、投稿内容のフィルタリング、メッセージのアーカイブなどを実行できるように設定することができます。それには、コントロールパネルから以下を実行します。

- 1 ホームページで [サービス] グループの [メール] アイコンをクリックします。
- 2 [メーリングリスト] タブをクリックします。
- 3 該当するメーリングリストのメールアドレスの横の  アイコンをクリックします。
ログイン画面が表示されます。
- 4 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

または、メーリングリストの設定には、以下の方法でアクセスできます。

- 1 WebブラウザでURL **Error! Hyperlink reference not valid.>** を入力します。<your-domain.com>は使用しているドメイン名、<listname>はメーリングリストの名前（すなわちメーリングリストのメールアドレスの @ 記号の左側の部分）です。
ログイン画面が表示されます。
- 2 リスト管理者のパスワードを入力し、[Let me in ...] をクリックします。

ユーザの登録と登録解除

- **メーリングリストにユーザを登録するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メーリングリスト] タブ > [メーリングリスト名] に進み、[新しいメンバを追加] をクリックします。
 - 2 登録者のメールアドレスを指定して下さい。
 - 3 [OK] をクリックします。

- **メーリングリストからユーザを登録解除するには、以下を実行します。**
 - 1 [メール] > [メーリングリスト] タブ > [メーリングリスト名] に進みます。
 - 2 ユーザのメールアドレスの左側のチェックボックスを選択します。
 - 3 **✕** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

メーリングリストへの投稿

メーリングリストにニュースレターを発行したりその他の情報を投稿するには、メーリングリストのメールアドレスへメールで送信します。登録された全てのユーザが受け取ります。

メーリングリストの削除

- **サイトからメーリングリストを削除するには、以下を実行します**
 - 1 [メール] > [メーリングリスト] タブに進みます。
 - 2 削除するメーリングリストに対応するチェックボックスを選択します。
 - 3 **✕** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

サイト使用量統計の表示

➤ **統計プログラム (Webalizer または AWStats) を選択するには以下を実行してください。**

- 1 ホームページで **[セットアップ]** をクリックします。
- 2 **[Web統計]** メニューから必要な統計パッケージを選択し (AWStatsが推奨です)、**[パスワード保護ディレクトリ /plesk-stat/ 経由でアクセス可能]** チェックボックスを選択します。

これにより Webalizer 統計ソフトウェアがインストールされますが、このソフトウェアによりレポートが生成され、そのレポートをパスワードで保護されたディレクトリに配置されます。すると以下の URL で Web 統計にアクセスすることができるようになります。 <https://your-domain.com/plesk-stat/webstat>にある Web 統計に FTP アカウントログインおよびパスワードでアクセスできます。

- 3 **[OK]** をクリックします。

注: ある統計プログラムから他に切り替えた場合、前の統計プログラムを使用して生成されたレポートはすべてサーバから削除されます。

サイトで使用している帯域幅の量およびディスク容量を調べるには、ホームページ下方の **[ディスク容量]** および **[トラフィック]** 列をご参照ください。

➤ **サイトの閲覧者数、閲覧元の国、およびサイトで閲覧されたページの内容を調べるには、以下を実行します。**





- 1 **[ドメイン]** グループの **[レポート]** アイコンをクリックします。
- 2 サイトの特定のエリア間でダウンロードもしくはアップロードした Web ページまたはファイルの統計を閲覧するには、以下を実行します。
 - ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、**[Web 統計]** をクリックします。
 - 保護付きハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) でサイトから転送された Web ページの統計を表示するには、**[Web 統計 SSL]** をクリックします。
 - ファイル転送プロトコル (FTP) で転送されたファイルの統計を表示するには、**[FTP 統計]** をクリックします。
 - 匿名 FTP 経由でファイル転送の統計を表示するには、**[匿名 FTP 統計]** をクリックします。
 - 帯域幅利用量を月別に表示するには、**[トラフィック履歴]** アイコンをクリックします。

- 帯域幅利用量をこのドメイン内の FTP 別、Web 別、メールサービス別に表示するには、**[トラフィック]** アイコンをクリックします。

注：アカウント上で Webalizer 統計パッケージを使用している場合、表示されるグラフレポートをカスタマイズすることができます。その手順については「Web 統計表示のプリファレンスの調整」〔see page 107 ページ〕セクションを参照してください。

または、次の URL を表示することによってサイトの Web 統計を確認できます。
<https://your-domain.com/plesk-stat/webstat> ユーザ名とパスワードの入力画面が表示されたら、FTP アカウント信用情報を指定します。

以下はレポートの共通操作です。

- 詳細を表示するには、**[レポート]** ドロップダウンメニューから **[フルレポート]** オプションを選択します。
- レポートに表示される情報の量を調整するには、 **[カスタマイズ]** をクリックし、既存のレポートテンプレートを変更します（この場合、レポートテンプレート名をクリック）か、新しいレポートテンプレートを作成します（この場合、**[新しいレイアウトを追加]** アイコンをクリックします）。次に、レポートの各セクションで必要な情報の量を指定します。どの情報も必要としない場合は **[なし]** を、詳細な概要が必要な場合は **[サマリー]** を、詳細なレポートが必要な場合は **[フル]** をそれぞれ選択します。**[デフォルトレポートとして使用]** チェックボックスを選択し、**[OK]** をクリックします。カスタムレポートレイアウトを削除するには、レポートレイアウト名の対応するチェックボックスを選択し、 **[選択対象を削除]** をクリックします。
- レポートを印刷するには、 **[印刷]** アイコンをクリックします。別のブラウザウィンドウにレポートが表示されます。ブラウザのメニューから **[ファイル]** > **[印刷]** オプションを選択して、レポートを印刷します。
- メールでレポートを送信するには、**[レポート]** グループの右側にある入力ボックスに受信者のメールアドレスを入力し、 **[メールにより送信]** アイコンをクリックします。自分が受信者である場合、メールアドレスを指定する必要がありません。システムはデフォルトで、使用中のユーザがレポート受信者と想定し、使用中のユーザのコントロールパネルアカウントに登録されたメールアドレスを指定します。
- レポートを毎日、毎週、または毎月自動的に生成し、E-mail で配信するには、**[レポート送信]** アイコンをクリックし、「レポート生成と E-mail による配信の自動化」セクションの指示に従ってください。

この章の内容:

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整	107
レポート生成とメールによる配信の自動化	108
ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定	109

Webalizer による Web 統計表示のプリファレンスの調整

デフォルトでは、統計ユーティリティは自分のサイトから、すなわち Web ページから行った Web ページおよびその他のファイルに対する要求をカウントし、報告します。よって、ユーザのブラウザが自分のサイトから、スクリプト、カスケードスタイルシート、メディアファイルなどの他のファイルの参照を含む単一の Web ページを要求した場合、統計ユーティリティはこれらのファイルの参照を、自分の Web ページを閲覧したかのように報告します。このため、デフォルトの設定では、利用量の統計は正確性を欠くこととなります。

これに対応するため、次のような操作が可能です。

- 上記のような内部参照、および他のサイトからの参照を隠す。
- 複数のサイトからの参照をグループ化し、単一の場所から参照されたかのように見せかける。
- ダイレクトリクエストを隠す。ユーザがブラウザに URL を入力した自分のサイトにアクセスした場合、ダイレクトリクエストが自分の Web サーバに送信されます。

レポート生成とメールによる配信の自動化

- **ドメインの詳細レポートを定期的に受信するには、以下を実行してください。**
 - 1 [レポート] > [レイアウト] > [レポートタイプ] > [レポート送信] > [新しい配送スケジュール] に進みます。
 - 2 システムに登録されたメールアドレスへのレポートを受信するには、[送信先] ドロップダウンメニューから [ドメイン管理者] の値を選択します。別のメールアドレスへのレポートを受信するには、[指定したメールアドレス] オプションを選択し、メールアドレスを入力します。
 - 3 [送信頻度] ドロップダウンメニューから、送信間隔を選択します。レポートは毎日、毎週、毎月のいずれかの間隔で送信できます。
 - 4 [OK] をクリックします。
- **詳細なドメインやWeb サイトレポートの送信スケジュールを変更するには、以下を実行します。**
 - 1 [レポート] > [レイアウト] > [レポートタイプ] > [レポート送信] に進みます。
 - 2 [頻度] の列で、変更する送信スケジュールに対応するハイパーリンクをクリックします。
 - 3 必要に応じて設定を調整し [OK] をクリックします。
- **アカウントステータスレポートの受信を停止するには、以下を実行します。**
 - 1 [レポート] > [レイアウト] > [レポートタイプ] > [レポート送信] に進みます。
 - 2 送信スケジュールに対応するチェックボックスを選択し、**✕** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

ログファイルの表示とログファイルの再利用の設定



Web サーバへの全ての接続とサーバに見つからないファイルの要求は、ログファイルに登録されます。これらのログファイルはサーバ上で実行される統計ユーティリティで分析され、オンデマンドでグラフィカルレポートで表示されます。これらのログファイルをコンピュータにダウンロードして、サードパーティ製の統計ユーティリティで処理したり、Web サーバをデバッグするためにログファイルのコンテンツを調べることができます。

これらのログファイルが増大するのを防ぐために、ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にする必要があります。

➤ **ログファイルの自動クリーンアップと再利用を有効にするには以下を実行してください。**

- 1 [ログマネージャ] > [ログローテーション] に進み、[ツール] グループの [有効化] をクリックします。
- 2 ログファイルを再利用する時期、およびサーバに格納する各ログファイルのインスタンス数を指定します。ログファイルを圧縮するか、処理の後にメールアドレスに送信するかを指定します。
- 3 [OK] をクリックします。

ログファイルのコンテンツを表示したり、それを自分のコンピュータにダウンロードするには、[ツール] グループの [ログマネージャ] をクリックします。ログファイルのリストが表示されます。

- ログファイルの表示する行数を、最後から数えた行数で指定し、[プリファレンス] グループの入力ボックスに数字を入力します。
- ログファイルのコンテンツを表示するには、ファイル名をクリックします。
- コンピュータにファイルをダウンロードするには、必要なファイルに対応する  アイコンをクリックします。
- サーバから処理済みのログファイルを削除するには、対応するチェックボックスを選択して  [選択対象を削除] をクリックし、[OK] をクリックします。

データのバックアップおよび復元

最新バージョンのバックアップユーティリティおよび復元ユーティリティをコントロールパネルにインストールしている場合、次の作業が可能です。

- **ドメイン (Web サイト) をバックアップ。** バックアップアーカイブには、アカウント (コントロールパネル内で操作を実行するためのリソース割り当てと権限を除く)、ドメイン (Web サイト)、およびメールサービスに関連したすべてのデータが含まれ、これにはメールボックスのコンテンツ、Horde Turba アドレス帳の連絡先リスト、アンチスパム設定およびアンチウイルス設定が含まれます。
- **バックアップのスケジュール。**
- **バックアップアーカイブからデータを復元**

ホームページからバックアップリポジトリにアクセスできます ([ホーム] > [バックアップ]) 。

この章の内容:

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定	111
ドメインのバックアップ	112
バックアップのスケジュールリング	112
バックアップアーカイブからのデータの復元	113
バックアップファイルレポジトリの維持	114

FTP リポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定

バックアップファイルの保存に FTP サーバを使用する場合はコントロールパネルを適切にセットアップする必要があります。

- 1 [ホーム] > [バックアップ] > [FTPリポジトリ] > [FTPアカウントプロパティ] に進みます。
- 2 以下のプロパティを指定してください。
 - FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名
 - バックアップファイルを保存したいサーバのディレクトリ
 - FTP アカウントにアクセスするユーザ名とパスワード
- 3 [OK] をクリックします。

ドメインのバックアップ

- **ドメイン (Web サイト) のバックアップを作成するには以下を実行します。**
- 1 [ドメイン] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 2 バックアップファイルをFTPサーバに保管したい場合は、まだFTPサーバの宛先アドレスを指定していなければ [FTPリポジトリ] タブをクリックして [FTPアカウントプロパティ] をクリックして指定してください (「FTPリポジトリ使用のためのコントロールパネルの設定」 『see page 111 ページ』 セクションを参照してください)。
 - 3 [ツール] グループの [今すぐバックアップ] アイコンをクリックします。
 - 4 バックアップファイル名を指定し、バックアップファイルの説明を入力します。
 - 5 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
 - 6 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
 - 7 [今すぐバックアップ] をクリックします。
 - 8 バックアップが開始し、進行状況が表示されます。
 - 画面の情報を更新するには、[更新] をクリックします。
 - バックアップをキャンセルするには、[キャンセル] をクリックして [OK] をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
 - 9 バックアップが完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。 [OK] をクリックします。

バックアップファイルは選択したレポジトリに保存され、FTP サーバもしくは [ホーム] > [バックアップ] で表示される場所からアクセスできます。

バックアップのスケジューリング

- **ドメイン (Web サイト) のバックアップをスケジューリングするには、以下を実行します。**
- 1 [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 2 [ツール] グループの [バックアップのスケジューリング] アイコンをクリックします。
 - 3 バックアップを実行する日時および間隔を指定します。

- 4 バックアップファイルの再利用を有効にするには、**[無制限]** チェックボックスを解除し、リポジトリの最大許容ファイル数を入力します。
この制限に達した場合、最も古いバックアップファイルが削除されます。
- 5 バックアップファイル名の先頭の記号の組み合わせを指定します。
この指定により、バックアップファイルを区別しやすくなります。
- 6 バックアップファイルを保存するリポジトリを選択します。
- 7 多重ボリュームのバックアップを作成するには、それぞれのチェックボックスを選択してボリュームサイズをメガバイトで指定してください。
- 8 **[ツール]** グループの **[スイッチオン]** アイコンをクリックします。
- 9 **[OK]** をクリックします。

バックアップアーカイブからのデータの復元

- **ドメイン (Web サイト) を復元するには、以下を実行します。**
- 1 **[ツール]** グループの **[バックアップ]** アイコンをクリックします。
 - 2 FTPサーバに保存されているファイルからデータを復元するには **[FTPリポジトリ]** タブをクリックします。
 - 3 必要なバックアップファイル名をクリックします。
 - 4 **[今すぐ復元]** をクリックします。
 - 画面の情報を更新するには、**[更新]** をクリックします。
 - 復元をキャンセルするには、**[キャンセル]** をクリックして **[OK]** をクリックしキャンセルされたかどうかを確認してください。
 - 5 復元が完了するとバックアップ結果がウィンドウに表示され、もしエラーが起こればエラーも一緒に表示されます。
 - 6 **[OK]** をクリックします。

バックアップファイルレポジトリの維持

このセクションでは、以下に関して説明します。

- 他のコンピュータに保存されているバックアップファイルのアップロード。
- 他のコンピュータへのバックアップファイルのダウンロード。
- バックアップレポジトリからの冗長バックアップファイルの削除。


このセクションの内容:

バックアップファイルのサーバへのアップロード	114
サーバからのバックアップファイルのダウンロード	115
サーバからのバックアップファイルの削除	115


バックアップファイルのサーバへのアップロード

- バックアップファイルをコントロールパネルでバックアップレポジトリにアップロードするには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
 - 2 [ファイルをローカルレポジトリにアップロード] をクリックします。
 - 3 [参照] をクリックして、必要なバックアップファイルを選択します。
 - 4 [OK] をクリックします。
- バックアップファイルが、バックアップレポジトリにアップロードされます。

サーバからのバックアップファイルのダウンロード

- バックアップファイルをコントロールパネルでバックアップリポジトリからダウンロードするには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 ダウンロードするバックアップファイルに対応する  アイコンをクリックします。
- 3 バックアップを保存する場所を選択し、[保存] をクリックします。バックアップファイルが、バックアップリポジトリからダウンロードされます。

サーバからのバックアップファイルの削除

- バックアップファイルをコントロールパネルでバックアップリポジトリから削除するには、以下を実行します。
- 1 ホームページで [ツール] グループの [バックアップ] アイコンをクリックします。
- 2 削除したいバックアップファイルに対応するチェックボックスを選びます。
- 3  [選択対象を削除] をクリックします。
- 4 削除を確認して [OK] をクリックします。

タスクのスケジューリング

特定の時間にサーバでスクリプトを実行する必要がある場合、システムで自動的にスクリプトが実行されるタスクスケジューラをプロバイダのサーバで実行します。

このセクションの内容:

タスクをスケジューリングするには	117
タスク実行の中断と再開	118
タスクのスケジューリング解除	118

タスクをスケジューリングするには

➤ タスクをスケジューリングするには、以下の操作を実行します。

- 1 ホームページで[スケジュール済みタスク]アイコンをクリックします。
- 2 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
- 3 [新しいタスクを追加] をクリックします。
- 4 コマンドを実行する時間を指定します。
 - 分 - 0~59 の値を入力
 - 時 - 0~23 の値を入力
 - 日 - 1~31 の値を入力
 - 月 - 1~12 の値を入力するか、ドロップダウンボックスから月を選択
 - 曜日 - 0~6 (日曜日が 0) の値を入力するか、ドロップダウンボックスから曜日を選択

UNIX クロージャエントリ形式を使用して、時間をスケジュールできます。この形式では、次の作業を実行できます。

- 複数の値をコンマ区切りで入力します。ハイフンで区切った2つの数字は、包括的範囲を意味します。例えば、ある月の4日、5日、6日、20日にタスクを実行するには、「4-6,20」と入力します。
- アスタリスクを挿入すると、そのフィールドに入力できるすべての値を指定できます。例えば、タスクを毎日実行するには、[日] テキストボックスに「*」と入力します。

N ごとに実行するようにタスクをスケジュールするには、「*/N」の組み合わせを入力します。Nはそのフィールドの適切な値です(分、時、日、月)。例えば、[分] フィールドに「*/15」を入力すると、15分ごとに起動するようにタスクがスケジュールされます。

月および週は省略名(Aug、Jul、Mon、Satなどの最初の3文字)で入力できます。ただし、省略名はコンマで区切ったり、数字と一緒に指定することができません。

- 5 実行するコマンドを指定します。 [コマンド] 入力ボックスに入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

タスク実行の中断と再開

- スケジューリングされたタスクの実行を一時的に中断するには以下を実行します。
 - 1 ホームページで [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 2 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 3 中断するタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
 - 4 [スイッチオン] チェックボックスを解除し、[OK] をクリックします。

- スケジューリングされたタスクを再開するには以下を実行します。
 - 1 ホームページで [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 2 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 3 実行を再開したいタスクを選択し、そのコマンド名をクリックします。
 - 4 [スイッチオン] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

タスクのスケジューリング解除




- タスクのスケジューリングを解除するには、以下を実行してください。
 - 1 ホームページで [ホスティング] グループの [スケジュール済みタスク] をクリックします。
 - 2 ハンドラを実行するシステムユーザアカウントを選択します。
 - 3 スケジューリングを解除したいタスクの左側にあるチェックボックスを選択し、**×** [選択対象を削除] をクリックします。削除を確認して [OK] をクリックします。

コントロールパネルへの接続と FTP サービスのモニタリング







このセクションの内容:

コントロールパネルへの接続のモニタリング	119
FTP サービスへの接続のモニタリング	120

コントロールパネルへの接続のモニタリング

- **現在コントロールパネルにログインしている顧客名を探すには、以下を実行します。**
- 1 ナビゲーションペイン内の **[セッション]** をクリックします。自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ** セッションを確立したコントロールパネルユーザのタイプ
 - ドメインまたは Web サイトオーナー
 - メールボックスオーナー
 - **ログイン** ユーザがログインしたときのログイン名
 - **IP アドレス** コントロールパネルにアクセスした IP アドレス
 - **ログイン時間** ユーザがコントロールパネルにログインした日時
 - **アイドル時間** ユーザがログイン中にコントロールパネルで何も作業を行っていない時間
- 2 ユーザセッションのリストを更新するには、**[更新]** をクリックします。
- 3 ユーザセッションを終了するには、各チェックボックスを選択し、 **[選択対象を削除]** をクリックし、確認を確認してから **[OK]** をクリックします。

FTP サービスへの接続のモニタリング

- FTP を使用してサーバに接続しているユーザ名、そのユーザが作業しているディレクトリ名、およびサーバ間でアップロードまたはダウンロードを行っているファイル名を確認するには、以下を実行します。
- 1 [セッション] に進み [FTPセッション] タブをクリックします。自分も含めた全てのセッションが表示され、次の詳細が表示されます。
 - **タイプ** セッションを確立したユーザのタイプ
 -  コントロールパネルに登録していないユーザ
 -  匿名 FTP ユーザ
 -  ドメインまたは Web サイト管理者
 -  サブドメイン管理者
 -  Web ユーザ（個別のドメイン名を持たない個人 Web ページのオーナー）
 - **ステータス** FTP 接続の現在のステータス
 - **FTP ユーザログイン** FTP アカウントへのアクセスに使用したログイン名
 - **ドメイン名** FTP ユーザが現在接続しているドメイン
 - **現在のロケーション** FTP ユーザが現在いるディレクトリ
 - **ファイル名** 操作中のファイル名
 - **スピード** 転送速度（キロバイト）
 - **進捗（%）** パーセンテージで示されるファイル移行の進捗度
 - **IP アドレス** FTP アカウントにアクセスしている IP アドレス
 - **ログイン時間** 現在のユーザがログインしてからの経過時間
 - **アイドル時間** FTP を使用してサーバに接続している間に、ユーザが何も作業を行っていない時間
 - 2 FTPセッションのリストを更新するには [更新] をクリックします。
 - 3 セッションを終わらせるには、該当するチェックボックスをチェックして、 [選択対象を削除] をクリックします。

第 8 章

ヘルプデスクを使用したサービスプロバイダへのサポート要求

サービスプロバイダがコントロールパネルに統合されたヘルプデスクによるサポートを提供している場合は、それを使用してプロバイダのテクニカルサポートスタッフに問題を報告することができます。

この章の内容:

サービスプロバイダへの問題レポートの提出	122
トラブルチケットへのコメントとクローズ.....	122

サービスプロバイダへの問題レポートの提出

➤ **新規の問題レポートをサービスプロバイダに提出するには以下を実行します。**

- 1 [ヘルプデスク] に進んで [新しいチケットを追加] をクリックします。
- 2 チケットの件名を入力し、関連するカテゴリを選択して問題の説明を入力してください。
- 3 [OK] をクリックします。

チケットはシステムを通してプロバイダに送信されます。問題が解決したらメールで通知が来ます。

トラブルチケットへのコメントとクローズ

➤ **新しいコメントの送信またはチケットのクローズを行うには以下を実行してください。**

- 1 ナビゲーションペインの [ヘルプデスク] ショートカットをクリックします。
- 2 作業を行うチケットを探し、その件名かID番号をクリックします。
- 3 チケットをクローズ、再オープンするには、またはチケットにコメントを投稿するには、[イベント] ドロップダウンボックスから実行する作業を選択し、必要に応じて [新規コメント] 入力フィールドに新しいコメントを入力します。
- 4 [OK] をクリックして送信します。